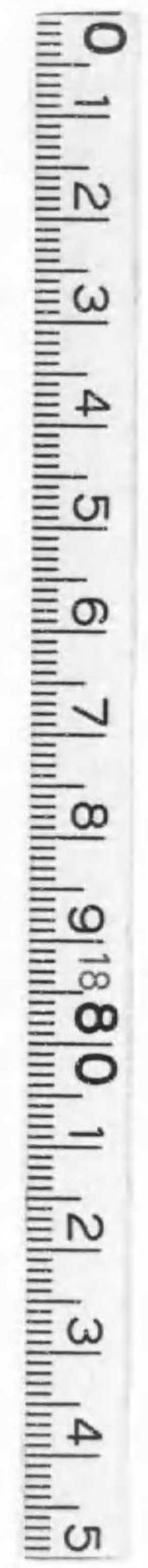


特 218
162



始



特218
162



家事教授研究会編

衣類整理法

東京文光社發行



例言

- 一、裁縫にも家事にも衣類整理が必要な項目の一に數へられてゐる。實際家庭生活の上に於て食物の調理と共に女子の仕事の主要部分を占めてゐるのである。
- 一、本書は此の重要な衣類整理を十七の課に分けて秩序正しく問答體に記述した。學生の自習にも便であり、又嫁入前の娘さん方の自學にも都合のよいやうにとつとめたのである。
- 一、本書が幸にして世の歡迎を受け、衣類整理法研究の上に多少でも貢献することが出来たなら著者の光榮之に如くものはない。

昭和十二年五月五日

著者識す

師生對話 衣類整理法 目次

第一課 衣服の目的 一
 衣服の目的……衛生上の目的……容儀上の目的……衣服の起源

第二課 衣服の材料 四
 植物性纖維……動物性纖維……礦物性纖維

第三課 纖維の鑑別 八
 燃燒試驗……顯微鏡検査……アルカリによる検査……酸による検査

第四課 絲 三
 絲の成り立……撚のかけ方による絲の種類……原料による絲の種類……絲の太さ……絲の強さ

第五課 織物 三
 織物の成り立……織物の丈夫さ……織物の有すべき物理的性質……織物の特質

第六課 衣服地の選定

衛生上：容儀上：經濟上：流行

三

第七課 色合

その一 色彩の原理

色合：色の種類：飽和色：原色：餘色：色の對比：色と感情：色の調和

三

その二 服装の色合

衣服の選定と色合：局部の調和と全體の調和

三

第八課 柄合

柄合：柄合の選擇

四

第九課 衣服の調製

衣服調製の方針：和服と洋服：我が國現在の衣服：服装の改善

四

第十課 衣服の着附

衛生上から：容儀上から

六

第十一課 服装の附屬品

帽子：傘：足袋・靴下：下駄：靴

六

第十二課 寢具と蚊帳

蒲團：枕：蚊帳

六

第十三課 衣服の經濟

衣服材料の節約：衣服の數の節減：材料の選定並に手入保存の研究：材料の繰廻し：材料の購入

七

第十四課 衣服の保存

清潔：整形：容器：藏納：防蟲

七

第十五課 汚點拔

汚點拔の必要：汚點拔の方法

八

第十六課 洗濯

洗濯の必要：洗濯の種類

八

その一 乾式洗濯法

乾式洗濯の本質：乾式洗濯の得失：乾式洗濯劑：乾式洗濯の方法

九

その二 濕式洗濯法

濕式洗濯の本質：濕式洗濯の得失：濕式洗濯劑：洗濯液

九

濕式洗濯の一般的順序

豫洗

本洗…揉み洗・細み洗・叩き洗・踏み洗・振りつけ洗・刷毛洗・轉がし洗・

煮洗・洗濯機械によるもの

水すきぎ・乾燥

漂白・青味附・糊附

仕上…手伸仕上・敷伸仕上・アイロン仕上・板張仕上・伸子仕上・湯伸仕上

その三

各種織物の洗濯

木綿織物…白布・色布

絹織物…白布・色布

毛織物…白布・色布

人絹と交織物

第十七課

染色と色揚

家庭染色と色揚…染料…染色の方法…浸染・絞染…色揚と染替

師生對話 衣類整理法

第一課 衣服の目的

●衣服の目的

①衣服は何のために着るのでせうか。

②衣服を着る目的は左の如くになると思ひます。

(一) 衛生上の目的

(1) 外界の気温の變化(風雨・寒暑等)に應じ、體温を調節して、身體の健康を維持すること。

(2) 皮膚から分泌する脂肪や・汗を吸収し、又外界からの塵埃や細菌のつづくのを防ぎ、皮膚の清潔を保つこと。

(3) 身體に對する外部的傷害を防ぎ護ること。

(二) 容儀上の目的

(1) 身體のかくすべき所をかくし、容姿を整へること。

(2) 身分相應の品格を保つこと。

(3) 身體を裝飾し美的感情を満足させること。

●衣服の起原

●衣服は防寒・保温又は身體に對する傷害防護等の目的から起つたものか、美を誇るために裝飾することから起つたものか、其の起原は如何でせう。

●衣服の起源發達については種々の説があります。

『人類は熱帯地方に發生し、保温・保護等、生活上の方法を工夫して温帯地方へ、それから寒帯地方へと移住したものと思はれる。そこで衣服といふものが工夫せられたのである。』と説いてゐる學者もありますが、又、

『吾人の生活上缺くべからざるものは衣食住の三要素で、食と住とは一般動物の共有する本能的のものであるが、衣は人類のみの特有する本能である。衣服は風雨・寒暑に處する防寒・保温と身體の障害に對する保護の目的から起り、美を誇示すべき裝飾乃至羞恥の觀念と同族群居の目標や敵を威嚇すべき必要等に迫られて自然に發達したものゝやうに考察せられる。』

と説いてゐる人もあります。何れも衛生上の目的から起つたものとしてゐます。菱山氏の「衣服整理綱要」にはすべての説が掲げられてあります。

(1) 防寒説 人類は原始時代に於ては他の動物と同じやうに全身に毛が密生してゐたが何等かの理

由で毛を失つた。其のため寒さを防ぐことが必要となつて衣服を着るやうになつた。

(2) 身體保護説 外力による皮膚の損傷を防護するために衣服を着るのである。

(3) 羞恥觀念説 身體には露出しては恥かしいと感ずる部分がある。其のかくすべき所をかくして容儀を整へるために衣服を着る。

(4) 裝飾觀念説 文身をしたり、耳輪をつけたり、身體を傷けてまで飾つたが、後には身體を傷けず裝飾や首飾を施し、遂には全身を飾るために衣服を着るやうになつた。

(5) 種族保存本能説 身體を飾り、異性の注意を引かうとする要求が意識的・無意識的に働いて何かを身體にまとひ飾ることから衣服を着るやうになつた。

皆さんは何れの説を信じますか。



亞麻の收穫

第二課 衣服の材料

① 衣服は如何な材料で作るでせうか。
 ② 衣服の材料として多く用ひられてゐるものは、織物と編物と革皮類とであります。中でも織物が最も多く用ひられてゐます。
 ③ 織物を其の原料から大別してみますと、左の如くになります。

(一) 植物性纖維

- (1) 木綿纖維：棉花
 - 米
 - 埃及綿
 - 印度綿
 - 支那綿
- (2) 麻纖維：大麻・亞麻・黃麻・苧麻・ラミー（絹麻）。
- (3) 人絹纖維：棉花・バルブ。

(二) 動物性纖維

- (1) 絹纖維：家蠶・野蠶
 - 天竺蠶
 - 蠶

- (2) 毛纖維：緬羊・山羊・駱駝・アルバカ・カシミヤ。

(三) 鑛物性纖維

石綿・金屬・硝子。

- 人によつては、左の如くに分けてゐます。
- (1) 植物性纖維
- (2) 動物性纖維
- (3) 鑛物性纖維
- (4) 人工纖維 人造絹絲・人造羊毛・人造麻。

問題

- (1) 世界に於ける綿の主産地は何處でせうか。
- (2) 我が國は何處から多く綿を輸入してゐますか。
- (3) 我が國でつかふ羊毛は何處から多く輸入してゐますか。
- (4) 我が國の緬羊飼育の有様は如何でせう。



綿羊（千葉縣三里塚牧場）

参考 (一)

帝國の重要貿易品 (昭和七年度)

輸出

生 絲	三億八千二百三十六萬六千圓
綿 織 物	二億八千八百七十一萬三千圓
絹織物及び 人造絹織物	一億一千八十二萬八千圓
メリヤス製品	二千六百九十三萬五千圓
陶 磁 器	二千二百九十三萬七千圓
罐頭詰食料品	二千二百七十七萬四千圓
綿 絲	二千五百五十四萬七千圓
小 麥 粉	二千五百三十三萬九千圓
輸入	
實綿及び繰綿	四億四千七百四十二萬一千圓
機械及び同部分品	五千八百八十一萬八千圓
鉄鐵(鐵を除く)	五千二百二萬七千圓

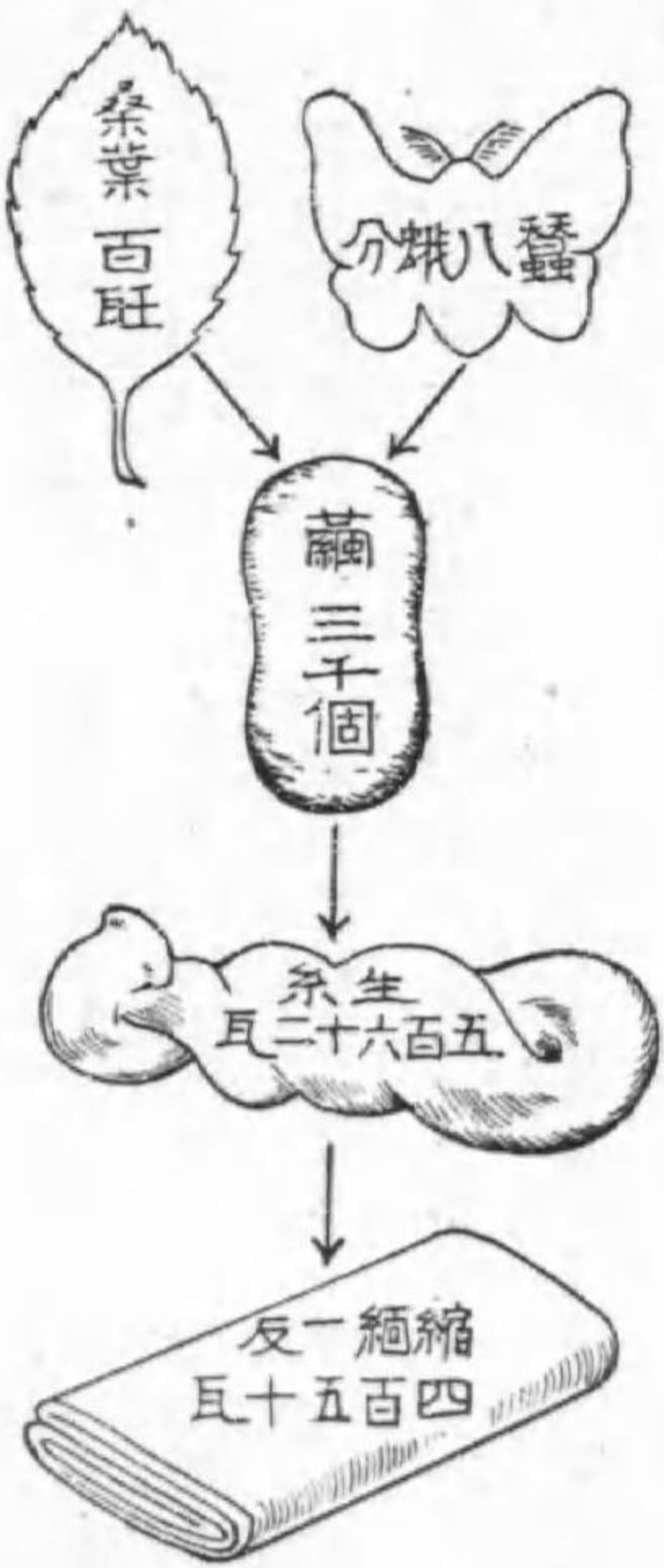


小 豆	四千九百五十七萬二千圓
麥 類	四千二百七萬圓
油 類	三千六百九十萬三千圓
木 材	三千五百二萬九千圓
油 槽	三千四百五十九萬九千圓
炭	二千七百三十五萬八千圓

参考 (二)

婦人の絹衣裳と繭

婦人の絹衣裳一枚表裏共總目方は約百八十匁で之に要する蠶の匹数は約三千匹であります。絹衣裳を五枚持つてゐる人は蠶一萬五千匹の恩恵を被つてゐることになるのであります。



(以上二項講談社
面白統計による)

第三課 纖維の鑑別

① 織物を手にしたとき、これは絹か人絹か、木綿か麻か、毛か、木綿と毛との交織かなどと其の纖維を見分けることは、大いに必要なことであります。

通常、外観や手觸り、光澤等で見分けます。人絹と本絹とを比較してみますと、本絹には底光と、キユ／＼といふ絹鳴があります。人絹はテカ／＼光り、絹鳴はありません。水に浸して引つばつてみますと人絹はすぐに切れてしまひます。植物性纖維と動物性纖維とは、酸性染料を用ひるとすぐに分かります。動物性纖維は染まり、植物性纖維は染まりません。

② 外見や手觸りでわかりにくいときは、如何すればよいでせうか。

③ それは焼いたり、顕微鏡で見たり、化学薬品で検査をするのです。

(一) 燃焼試験 布からとつた糸をほぐして得た纖維を横から火焰の根元に近づけて焼いてみます。

(1) 動物性纖維 先端は球になつて燃え、燐を離れると火は消えまして、後には炭の小塊が残ります。燃える時には一種不快な毛焼臭を放ちます。

(2) 植物性纖維 紙を焼くときの如き「キナ臭い」臭を放ち、燐を離れても火は燃え移り、後には灰を残します。麻などは形がくづれず、其のまゝ灰が残ります。

人造絹絲・人造羊毛などは燃え方が他の植物性纖維よりも一層活潑であります。

④ 人造絹絲と人造羊毛は如何にちがふでせうか。

⑤ 本質には變りありませんが、人造羊毛は纖維が細く短く、紡績によつて糸となり、織物は光澤に乏しく毛織物に似てゐます。

(3) 顕微鏡検査 燃えません。

(二) 顕微鏡検査 纖維の特徴ですぐにわかります。

(1) 木綿纖維 緩くねぢれた紐の如し。

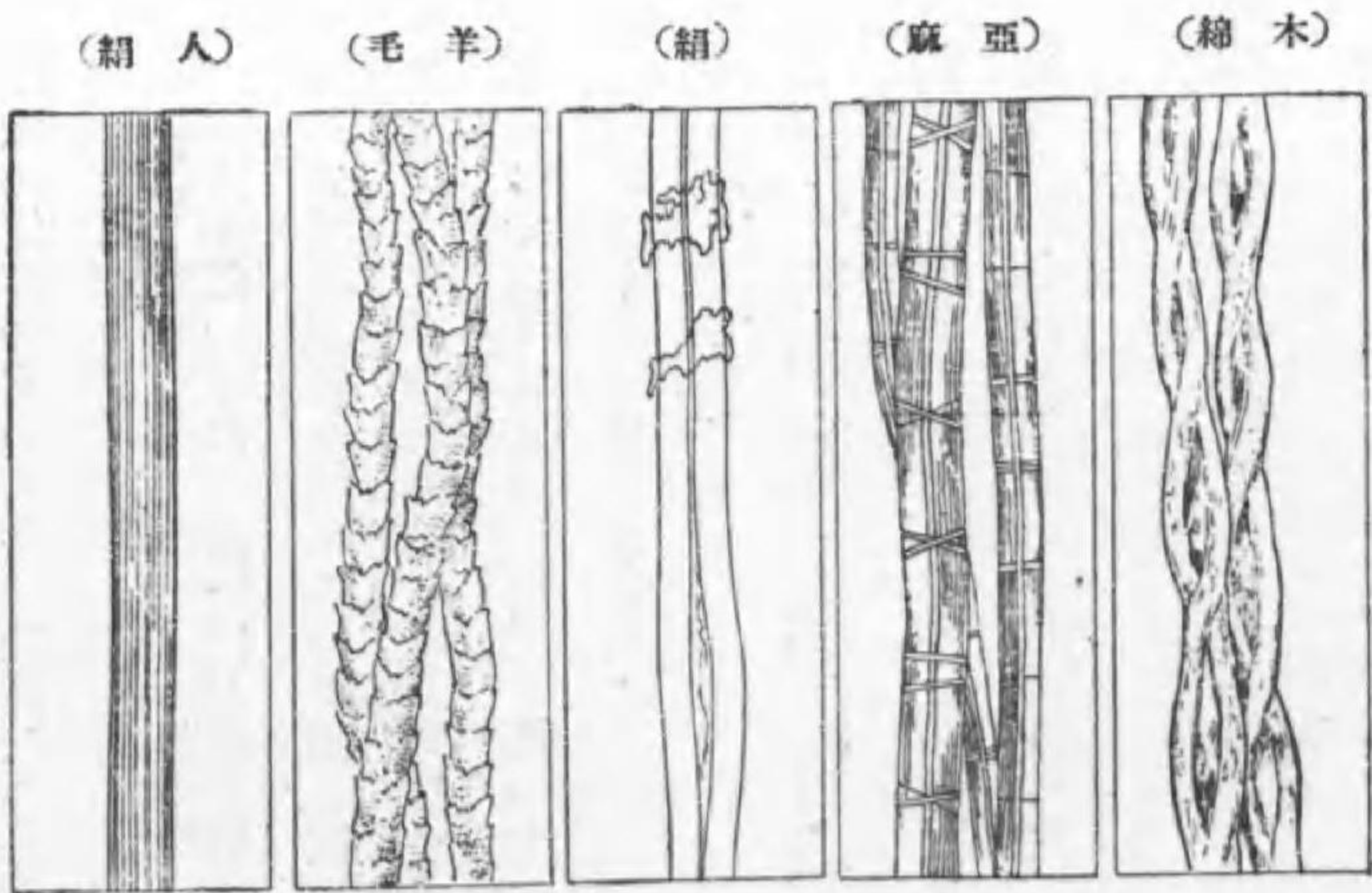
(2) 麻纖維 節ある棒の如し。

(3) 絹纖維 滑かな硝子棒の如し。

(4) 羊毛纖維 鱗ある棒の如し。

(三) アルカリによる検査 植物性纖維はアルカリに強く、動物性纖維はアルカリに弱いのです。苛性ソーダ・苛性カリの水溶液で纖維を煮てみます。

(1) 植物性纖維(人造絹絲を含む) 溶液の濃淡にか



纖維種各た見で鏡微顯

かはらず、溶けません。故に植物性纖維は稍濃いアルカリ溶液の温度の高いもので洗濯しても差支ありません。

(2) 動物性纖維 毛は最も早く溶け、絹は次いで溶けます。溶液が濃いければ濃いほど早く溶けます。毛を溶かしたアルカリ溶液に醋酸鉛の水溶液の少量を加へますと黒色を呈するので絹と區別することが出来ます。アルカリ中でも苛性ソーダはアンモニア水よりも動物性纖維を多く害します。故に絹織物や毛織物、洗濯には中性の布海苔溶液を用ひるが安全であります。アルカリ性のものを用ひるなら稀いアンモニア水か、稀い洗濯石鹼の中温溶液を用ひなくてはなりません。

(三) 酸による検査 植物性纖維は酸に弱く、動物性纖維は酸に強いのです。

(1) 植物性纖維 稀い硫酸又は鹽酸の一滴を布につけて火で熱しますと其の部分は黒くなり、揉むと粉となつて飛ぶ程に弱ります。濃く且つ温度の高い酸の溶液に植物性纖維を入れると溶けます。

(2) 動物性纖維 稀い酸には害せられません。酸の溶液が濃く且つ温度の高いときは多少の害を受ける位であります。

④ 買物に行つて其の場で鑑定が出来ないと此等の鑑別法は役に立たないではありませんか。これは純毛か絹綿交織か……番頭さん一寸顕微鏡を貸してください。……などいへませんもの。

⑤ 買物には鑑定力を持つた方と一しよに行かれるがよいのです。漸次経験を心得て後には自分にも鑑

定力が出来ます。柄合・色合のみならず地質にも着眼しなくてはなりません。以上述べた所のものをまとめて見ませう。

種類	性質	手觸	光澤	燃焼	アルカリ	酸
木綿織物		硬	無	キナ臭し 糸状のまゝ灰	最強	弱
麻織物		硬・冷	稍有	"	強	弱
人絹織物		稍硬	強	"	強	弱
絹織物		柔	有	毛球となる 臭	弱	強
毛織物		柔・温	無	"	最弱	強

問題

- (1) 動物性纖維を漂白粉で晒すことの不可なるわけ。
- (2) 交織物を焼いて試験するに経絲と緯絲の兩者を焼いて見なくてはならぬわけ。絹と人絹の交織物、綿毛交織物につき實驗してみよ。

第四課 絲

① 絲の成り立

絲には、紡績絲と繰絲とがあります。

(1) 木綿や羊毛の如く短い纖維を積重ねて撚をかけたながら引きのばしたものの……紡績絲。

(2) 絹や人絹の如く長い纖維を並べて撚をかけたもの……繰絲。

前者の如き絲をつくるを紡績といひ、後者の如き絲をつくるを製絲といひます。

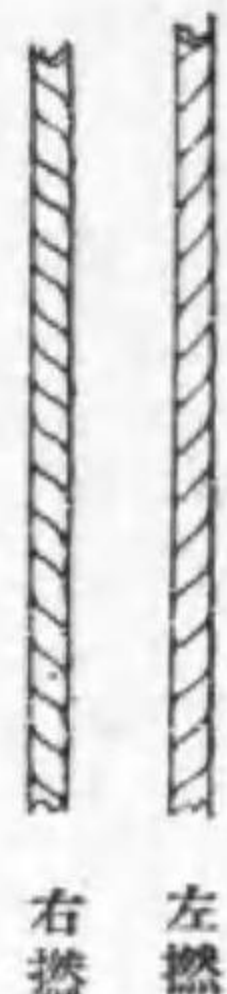
② 撚のかけ方による絲の種類

撚のかけ方によつて單絲・複絲・飾絲等の區別があります。

(1) 單絲 (片絲・片撚絲) 撚が一方にのみかゝつてゐるもの。

(イ) 右撚絲

(ロ) 左撚絲



(2) 複絲 (諸絲・諸撚絲・雙子絲) 單絲を二本揃へ、單絲の撚と反對の方向に撚り合せたもの。

元の單絲の撚を下撚といひ今度かけた撚を上撚といひます。

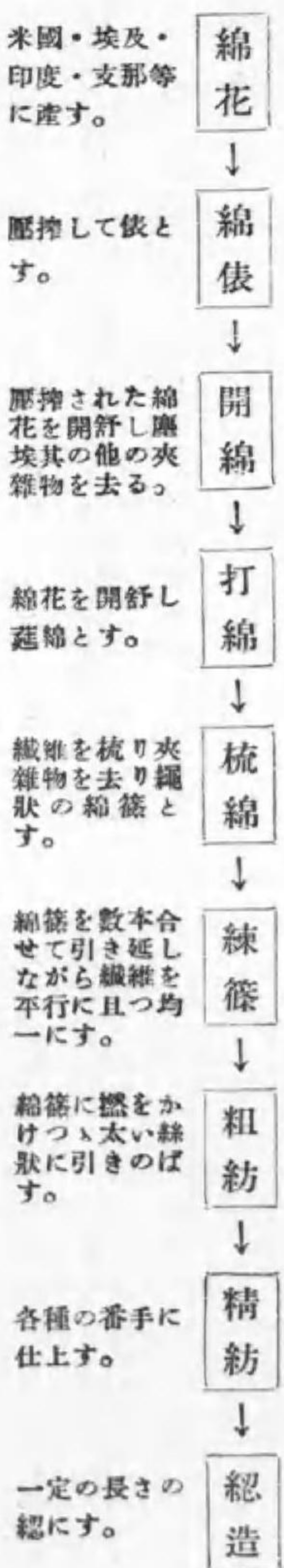
二本の單絲を撚り合せたもの二子絲、三本は三本撚り……二本撚以上を總稱して複絲といふ。

(3) 飾絲 色合又は撚のかけ方を變へた絲を撚り合せたもの。

③ 原料による絲の種類

原料の上から見ると左の如くになります。

(一) 綿糸



(1) 木綿絲

(イ) 單絲 白木綿・縞木綿・紺木綿

(ロ) 複絲 雙子縞

(2) ガス絲 上質の複絲の毛羽をガス焔で焼いて磨きかけたもの。(光澤あり) ガス縞・綿縞子。

(3) シルクケット 綿絲を緊張しつゝマルセル化したもので光澤があります。絹綿交織。

(4) リンネット 綿絲・ガス絲又はシルクケットに加工して麻の如き手觸りと風味とを與へたものであります。麻の代用。

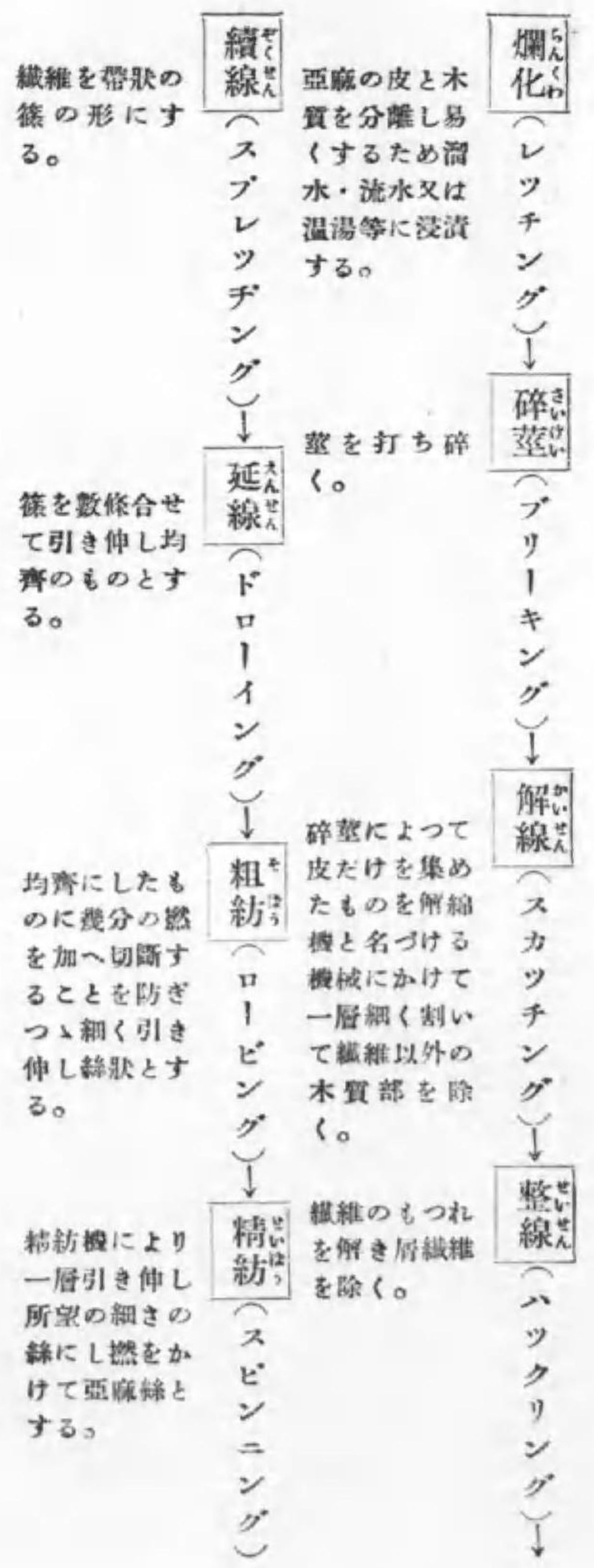
① マルセル化といふのは如何いふことですか。
 ② マルセル化といふのは綿絲を收縮しないやうに緊張して濃い苛性ソーダ溶液で処理するのをいふのです。かくするときは絲に光澤が出ます。

精練し、脱水した綿絲を二本のロールで緊張し、濃い苛性ソーダの溶液に侵漬すること数分の後、清水で洗滌し、次にロールから綿絲を外し、稀硫酸水に通じて綿絲中に残留してゐる苛性ソーダを中和し、次に十分水洗して乾かすか、或は水洗後更に炭酸ソーダの稀薄溶液に通じ、水洗して乾かすのであります。水洗後伸張状態で乾かすと一層光澤を發揮します。

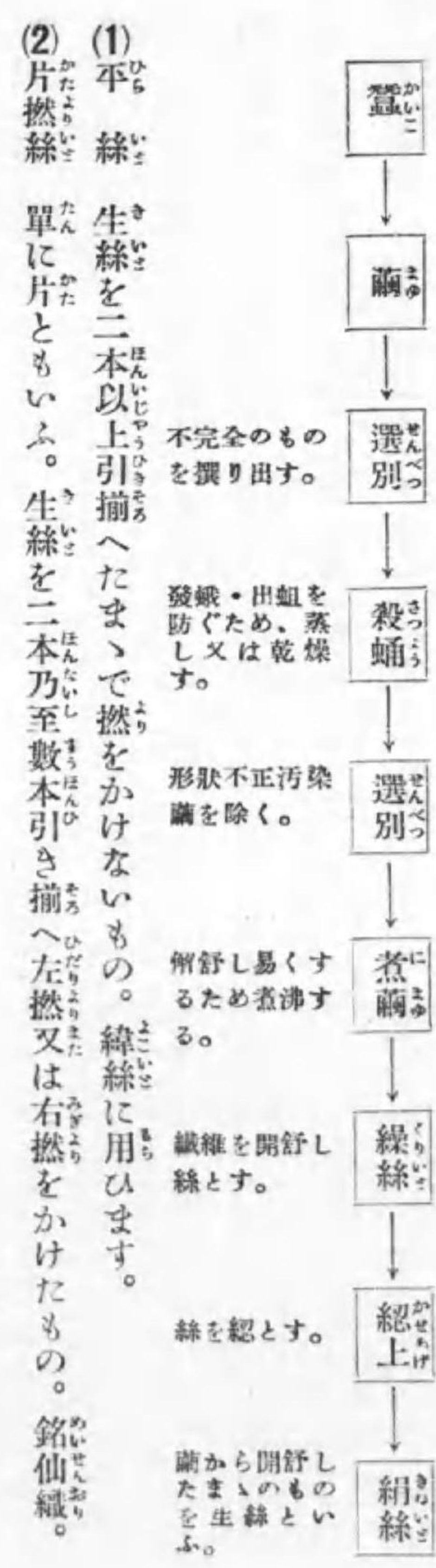
此の方法は西暦一八四四年英國のジョン・マーサーといふ人が發見したものでありますから、發明者の名を冠して、木綿其の他の植物性纖維を濃苛性ソーダ溶液で処理することをマーセリゼーションといひ、此の處理を施したものをマルセル化したものといふのであります。

(二) 麻 絲

- (1) 亞麻絲 亞麻の纖維を細く裂き燃をかけたもの。上布類・リンネル織・ナフキン地等。
- (2) 大麻絲 奈良晒・近江晒・能登上布等。
- (3) 苧麻絲 越後上布・薩摩上布等。



(三) 絹 絲



(3) 諸燃絲

單絲を二本以上撚り合せたもの。袴地・博多織等。

(4) 壁 絲

生絲を數本引き揃へて強撚をかけ、之に生絲一本又は二本を引き揃へて前と反對の撚をかけたもの。壁お召の緯絲。

(5) 縮細絲

生絲を數本合せて極めて強い撚をかけたもので左撚と右撚との二種があります。縮細・お召・錦紗等。

(四) 人造絹絲

原料は纖維素でありますが製法によつて數種あります。

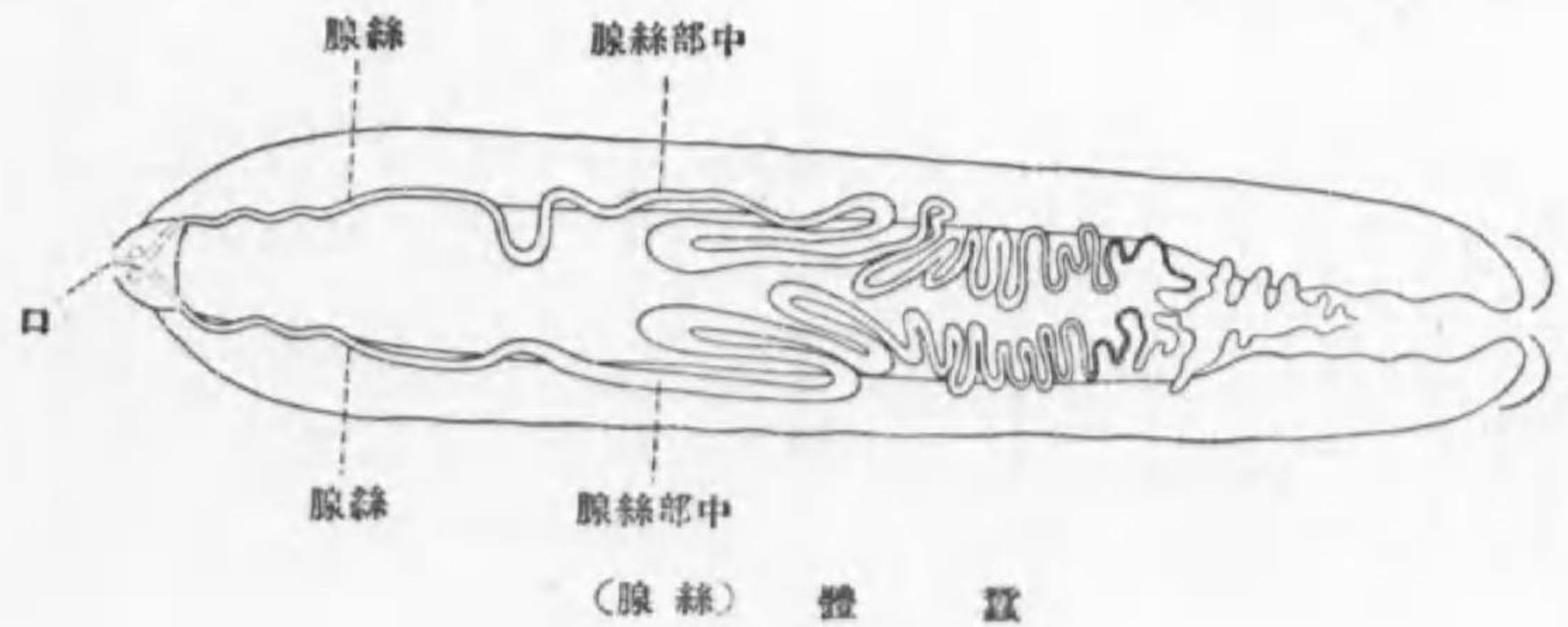
レーヨンと稱ばれて賣られてゐます。

① 人絹には如何な種類がありますか。

② 人絹は西曆一八八九年フランスのシャルドンネ氏の發明にかゝり、後幾多の改良が加へられ今日に至つたものであります。現今市場にあらはれてゐるものは左の四種であります。

(1) 硝化式人造絹絲

植物纖維素を濃い硝酸と硫酸との混合液に浸して硝化し、硝化纖維素とし、次に水洗し、脱水し、之をアルコールとエーテルとの混合液に溶かし、濾過して得た粘稠液を毛細管から空氣又は水蒸氣中若くは水中に押し出しますと硝化絲となります。此の硝化絲を硫



伯ネンドルヤシ

化アンモニウム・硫酸ソーダ等の溶液で脱硝し、更に漂白すると人造絹絲となるのであります。シャルドンネ氏が發明したのは此の人造絹絲であります。故に之をシャルドンネ絹絲ともいひます。

(2) 銅・アンモニア式人造絹絲

精製綿を濃いアルカリ液に浸し、密閉罐で加壓して煮沸し、不純物を除くと同時にマルセル化を行います。それから水洗をし、漂白し、乾燥させて酸化銅のアンモニア溶液に溶かし、濾過して紡絲液とし、之を毛細管から硫酸水又は苛性ソーダ液中に押し出し、凝固させると絲となります。之を更に硫酸水に通し、銅分を除き、水洗すると銅アンモニア式の人造絹絲が得られるのであります。獨逸で完成せられました。主なる功勞者はバウリー氏であります。

(3) ビスコース式人造絹絲 精製した植物纖維素を濃い苛性ソーダ溶液で處理してアルカリ纖維素とし、之に二硫化炭素を作用させて纖維素ザントゲン酸ソーダをつくります。之を苛性ソーダを含

水に溶かしたものをビスコースといひます。ビスコースの適當な粘稠度のものを濾過して紡絲液とし、之を毛細管から凝固液中に押し出して凝固させます。凝固液には、硫酸・硫酸ソーダ・鹽化アンモニウム等が用ひられます。水洗して乾燥させますと、粗製絹絲が得られ、更に硫化ソーダ溶液で処理し、硫黄分を除き漂白すると、ビスコース人造絹絲が得られるのであります。人造絹絲の八割はビスコース絹絲で我が國の人造絹絲製造會社は多くありますが何れも此の式の人造絹絲を製造してゐるのであります。英國で完成されました。主なる功勞者は、クロス、ビバン、ビードルの三氏であります。



(4) 醋酸纖維素絹絲 植物性纖維素を無水醋酸・氷醋酸及び濃硫酸等の混合液で處理して醋酸化し、醋酸纖維素とし、之をアセトンの如き溶劑に溶かし、其の溶液を毛細管から空氣中、水中又は鹽類の溶液に押し出して絲狀に凝固させたものであります。英國で完成されました。天然絹に最も近似したものであります。

問題

我が國に於ける人造絹絲の産地を問ふ。……福井・群馬・京都・石川・愛知・栃木・新潟・滋賀……。

(五) 羊毛絲

- (1) 梳毛絲 纖維の長いもの 撚が強く縮絨しにくい。モスリン・セル等。
- (2) 紡毛絲 纖維の短いもの 毛羽があり手觸が柔かく縮絨し易い。羅紗・フランネル・毛布等。

問題

毛絲の原料に乏しい我が國では、其の使用上に如何なる注意を必要とするか。

(四) 絲の太さ

- ① 絲の太さは何でありますか。
- ② 綿絲・麻絲・毛絲の太さは番手で、絹絲・人造絹絲の太さはデニールでありますか。
- ③ 番手といふのは如何いふものですか。

④ 番手を一般的にいひ表はしますと、或る定まつた長さで或る定まつた重さを有する絲を一番手と定め、同じ重さで其の長さのN倍のものをN番手といひます。

我が國では紡績絲には英國式の番手を用ひてゐます。それは、單絲の場合は長さ八四〇ヤード(七六八米)で、重量一封度(四五三・六瓦)のものを一番手とし、八四〇ヤードのN倍の長さで一封度あるものをN番手の絲といひます。

⑤ N倍とかN番手とかのNは何のことですか。

⑥ Nは數をあらはすのです。二倍とか三倍とか、四〇番手とか、八〇番手とか……Nは此の幾何といふ數を共同的にあらはしたものです。

諸絲の番手は其の諸絲を構成する單絲の番手であらはします。例へば八〇番手の諸絲は八〇番手の單絲二本を撚り合せたものゝ意味で實際の絲の太さは四〇番手の單絲に相當するわけであります。

⑦ 番手の數と絲の太さとの關係、例へば十六番手の絲と二十番手の絲は何れが太いでせうか。

⑧ 麻絲や、毛絲の番手も綿絲と同じですか。

⑨ ちがひます。

(1) 麻 絲 長さ三〇〇ヤード、重さ一封度が一番手。

(2) 毛 絲 梳毛絲と紡績絲とでちがひます。

(イ) 梳毛絲 共通式(萬國式)では長さ一キロ米で重さ一キロ瓦のものが一番手。

英國式では長さ五六〇ヤードで重さ一封度のものが一番手。

(ロ) 紡毛絲 共通式(萬國式)では梳毛絲と同じ。

英國式では長さ二五六ヤードで重さ一封度のものが一番手。

何れの番手でも標準の重さを定め、其の重さに於ける絲の長さを比較して番手を定めるのであります。即ち恒重式によつてゐるのであります。

⑩ デニールは?

⑪ 長さ四五〇米で重さが〇・〇五瓦あるものを一デニールといひ、之を單位とします。長さが四五〇米で重さが其のN倍のものをNデニールといひます。四五〇米で重さ〇・五瓦あるものは一〇デニールといふことになるのです。デニールは長さを基本とします。恒長式であります。

問題

デニールの數の大小と絲の太さとの關係如何。

五絲の強さ

⑫ 絲の強さは、絲の太さに比例するものでせうか。

⑬ 絲の強さは大體同じ纖維ならば太さに比例しませう。太さが同じでも纖維の種類によつて強さは

大にちがひます。又纖維も太さも同じであつても乾濕によつてちがひます。乾濕による絲の強さを知つてゐますか。

④ 木綿絲・麻絲は濕つた方が強く、毛絲・人造絹絲は之と反對であります。

⑤ 前述べたことは絲の纖維其のものが切れる場合でありますが、纖維がずれ滑るために切れる場合があります。此の場合には如何でせう。

(1) 絲の撚の強いものと、弱いものとは何れが切れ易いか。

(2) 個々の纖維の長いものと短いものとは何れが切れ易いか。

⑥ それはわかります。絲の撚の弱く、纖維の短いほど切れ易いではありませんか。

第五課 織物

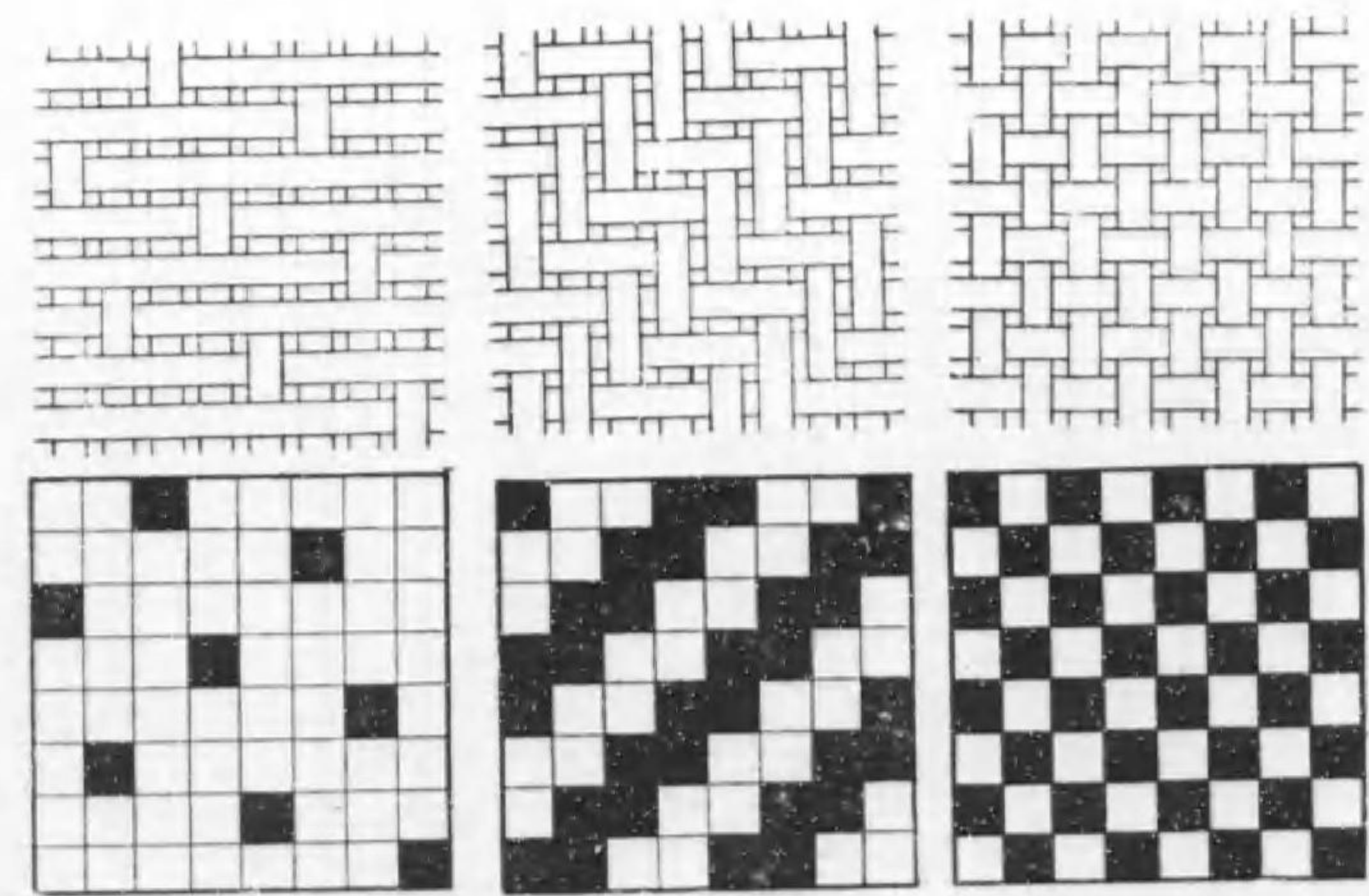
① 織物の成り立

② 織物は經絲と緯絲とが互に直角に組み合はさつて成立つてゐます。布をほごして御覽になればすぐわかります。

③ 織物によつては絲の組み合せ方がちがつてゐますか。

④ ちがつてゐます。其の組み合せ方によつて種々の織物が出て来るのであります。其の組み合せ方を組織といひますが、基本的のものは三つであります。之を三原組織といひます。

(1) 平織組織 經と緯との絲が一本づゝ交互に組み合はされたもの。最も丈夫であります。晒木綿・綿木綿・銘仙・蚊帳等は平織であります。



織組織子縞 織組織紋斜 織組織平

(2) 綾織組織 斜紋織組織ともいひます。緯糸が一つおきに経糸の二本以上を飛んで組み合ひ、次の緯糸は一つずれて同様に組み合ひ綾が斜の方向に走つてゐるものであります。雲齋織・綾ネル・セル等は綾織であります。

(3) 縞子織組織 経糸と緯糸との組み合わせが連続することなく、一定の間隔を以て配置されたものであります。経糸か緯糸かの一方が多く表にあらはれ、他の糸は表にあらはれることは少ないのであります。光澤があり、滑かでありますが丈夫ではありません。縞子織は其の代表的のものであります。

問題 三原組織の丈夫さを比較せよ。

他に種々の組織がありますが、家事としては餘り深入する必要はないと思ひますが、さつと述べてみませう。

(一) 變化組織 三原組織を變化したものを。

- (1) 平織を變化したもの 斜子織・八橋織・畦織。
- (2) 綾織を變化したもの 高貴織・晝夜斜紋織。
- (3) 縞子織を變化したもの 重縞子織・晝夜縞子織。

(二) 特別組織

(1) 柄織組織 経糸が緯糸に一定の順序で柄みついたもの。紗織・紹織。

(2) 紋織組織 緯糸を経糸數本の上に浮かせて模様を表はしたものを。

(イ) 地合が平織のもの。厚板。

(ロ) 地合が綾織のもの。錦織。

(ハ) 地合が縞子織のもの。縞珍。

(3) 二重織組織 表裏二重の反對の織物をつ

り合はせたやうなもの。風通織。

(4) 添毛織 表裏二重の組織の裏糸を表に浮かせて毛羽又は輪奈をつくつたもの。コール天・天鷲

絨。

問題 織物標本により各種の織物を見て其の組織を検せよ。

① 経糸・緯糸の交叉状態をあらはすには、意匠紙と名づける方眼紙を用ひます。縦の罫一本は織物の経糸一本を横の罫一本は織物の緯糸一本を表はすものであります。経糸が緯糸の上に跨つてゐる點を組織點として星附をします。組織圖の黒い所が即ちこれでありませう。

② 織物の丈夫さ

織物の丈夫さは何によつてちがふかを調べませう。考へて御覽なさい。



① 組織の所の問題にもありましたが、平織が他の組織よりも強く、長く浮いた糸のある縞子織などは弱いです。

それから糸の太さ、撚の強さにもよります。経緯糸共にそれ等に大なる差のないものが強いと思ひます。

② 経緯糸の太さや撚の強さに大なる差があつた場合は何故に弱いでせう。

③ 糸の細い、撚の甘い方が早く弱ります。其のときは一方が強かつても駄目です。結局其の織物は弱い方の糸が其の織物の使用期間の最長限度となるわけです。

④ その外に織物の丈夫さを左右する原因はありませんか。

⑤ 生ないやうにおもひます。

⑥ 燈台下暗し……。繊維の質にはよれませんか。

⑦ それが根本でした。木綿織物や麻織物は概して丈夫で、毛織物・絹織物・人絹織物等は比較的に弱いです。

⑧ 布の丈夫さをまとめていつて御覧なさい。

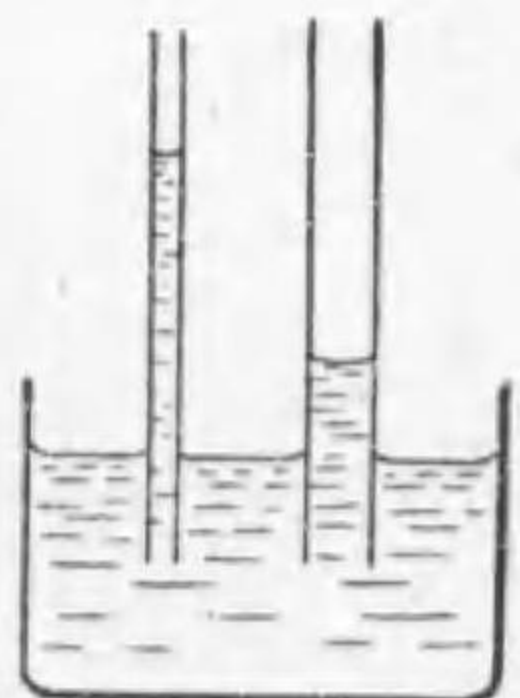
⑨ 織物の有すべき物理的性質

⑩ 織物の有すべき物理的性質は大體左の如くであります。

(1) 保温性 弾性に富み繊維の間に熱の不良導體である所の空気を多く含むものが保温性に富んでゐます。空気を多く含むか含まぬかは繊維の性質と織り方によるものであります。

(2) 通気性 我々の皮膚からは水蒸気や炭酸ガスが絶えず發散してゐます。此等を適度に通過させないと不快を感じるやうになります。ゴム引布を密着させて着た場合などはガスが溜つて一種の不快感を感じるのは其の適例であります。織目の粗いものや繊維の間に多くの空気を含むものは通気性が大であります。

(3) 吸水性 液体の水を繊維が吸収する性質であります。繊維の間の空隙の細小な程吸水性に富むわけでありす。木綿織物・絹織物・麻織物等は吸水性が大で毛織物は吸水性が小であります。



毛細管現象

吸水した水分を發散する性質を發散性といひます。麻織物は發散性が最も大で毛織物は最も小であります。

(4) 吸濕性 氣體たる水蒸気を吸収する性質であります。毛織物は吸濕性が最も大で絹・木綿・麻織物等は順次に之に劣つてゐます。

⑪ 通気性と保温性とは兩立するものでせうか。

⑫ 通気性に富むものは保温性に乏しいやうに考へられます。それはある程度までさうであります。

然し皮膚から發散したガス體が衣服の外に出るには氣孔を通じて流れによるよりも、其の氣孔を通じてガスの擴散作用によるものが多いのです。故に保温性と通氣性とは或る程度まで兼備することが出来ます。たゞ強い風に當る場合には通氣性に富むときは、空氣の流れを起し、保温性は全きを失ふことは出来ません。

③ 擴散作用といふものを教へてください。

④ ガス體は其の重さの關係にかゝらずに、互に混合して各部分が等質のものにならんとする性質があるのです。此の現象をガスの擴散といひます。



驗實の用作散擴のヌガ

之を實驗するには空氣の入つた圓筒の上に水素の入つた圓筒を倒にのせ静かに境目の板をぬき去つて數分間を経過させ、次にその各に點火してみます。さうすると兩者が相混合した證據には、何れも多少爆發的の燃焼をします。

問題

- (1) 毛織物は何故に吸水性に乏しいか。
- (2) 毛織物は何故に温かいか。
- (3) 絲の太いものと細いものとは何れの保温性が大であるか。

(4) 目の細かいものと粗いものとは何れの發散性が大であるか。

四 織物の特質

⑤ 織物の特質を綜合してみませう。

	衛 生 上	容 儀 上	經 濟 上	用 途
(一) 植物性纖維	保温性中等、通氣性は小、吸水性・發散性中等、重く感ずる。	弾力性が小で皺になり易し。光澤なく粗野で美しくない。汚れ易い。	耐久性に富み洗濯に堪へる。(アルカリに強く酸に弱し)安價である。	肌 着 日常服 作業服
(1) 木綿織物	通氣性大に保温性に乏しい。吸水性中等、發散性は大で體温を奪ふこと甚だしい。	弾力性が小で皺になり易い。光澤は中等である。	耐久性に富み、洗濯に堪へる。(アルカリに強く酸に弱し)木綿織物よりも高價である。	夏季の着物 ナフキン
(2) 麻織物	大體木綿織物に同じ。	光澤に富み外觀が絹に類してゐる。弾力性に乏しく皺になり易い。	耐久性に乏しく殊に水に弱い。安價である。	平常着 交織物としたものは防 問着
(3) 人絹織物	保温性は大ではない。通氣性は中等、吸水性は木綿の次に位する。軽く柔かく感ずる。	外觀は美で光澤を有し、手觸がよい。弾力性は中等で餘り皺を生ぜず。織維が細かく美しく上品である。	耐久性に乏しい。(酸に強くアルカリに弱い)高價である。	訪問着 禮服 老人の平常着 裝飾用品
(2) 毛織物	保温性・通氣性に富む。吸水性小、吸水性大。發散性は小である。	外觀は餘り美ではないが品位がある。弾力性に富み、皺を生ぜず。汚れ難い。	耐久性に富む。(酸に強くアルカリに弱い)洗濯がむづかしい。高價である。虫害を受け易い。	洋服 雨具類

二種の繊維の交織物は性質は兩纖維の中間で概ね安價であります。外觀は美しいけれども洗濯には不便であります。

第六課 衣服地の選定

① 衣服地を選定するには如何なる點に着眼すべきでせうか。

② 衣服の目的の上から選定すべきでせう。即ち衛生上、容儀上から選定すればよいと思ひます。

③ 經濟のことは考へないでもよいでせうか。

④ 經濟のこともいります。

⑤ 流行は？

⑥ 流行も考へなくてはなりません。

⑦ それでは之をまとめてみませう。

(一) 衛生上

(1) 保温性 冬は保温性大なるもの、夏は保温性の小なるものがよい。

(2) 通氣性 適度のもの。

(3) 吸水性・吸濕性 適度のもの。

(4) 發散性 緩徐なもの。

(二) 容儀上

- (1) 弾力性 弾力性が大き過ぎるの出来にくいもの。
- (2) 光澤 光澤の上品なもの。
- (3) 色合 男女・年齢・職業・社会的地位・季節・個人の皮膚の色等に適合するもの。
- (4) 柄合 男女・年齢・職業・社会的地位・個人の體格等に適合するもの。

(三) 經濟上

- (1) 市價と耐久性とを考へて經濟的のもの。
- (2) 洗濯保存の容易なもの。

(四) 流行

- (1) 餘り流行に流れたものは見苦しい。
- (2) 流行の尖端を行くは輕卒である。
- (3) 流行色とても必ずしも自己に適するものではない。各自によく似合ものを選ぶこと。

第七課 色合

その一 色彩の原理

● 色合

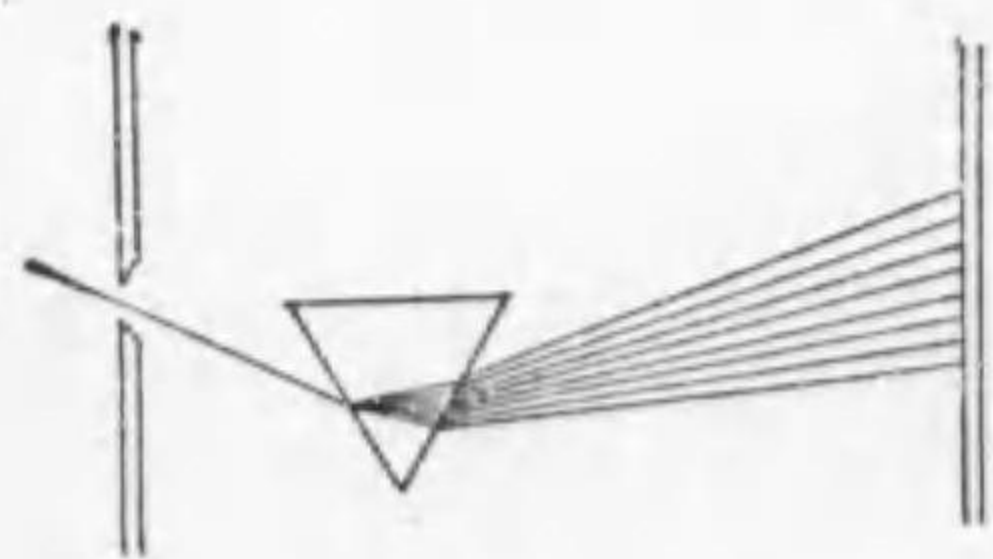
● 衣服の選定につき織物の衛生上、容儀上からの種々の條件をうかゞひましたが、なほ色合と柄合とについてお話ししてください。

● それでは色合からお話しいたしませう。色合は男女・年齢・季節・皮膚の色等を考へ、適切なものを選ばないと、高價な地質のものでも見苦しいものがあります。それで先づ色彩の原理ともいふべきものからお話しいたしませう。

● 色の種類

プリズム（三稜鏡）を用ひて日光を分解してみますと、美しい色帯が出来ます。これをスペクトルといひます。スペクトルは赤・橙・黄・緑・青・藍の六色から成つてゐるのです。以前には紫・紺・青・緑・黄・橙・赤の七色であるとせられてゐました。

● 飽和色



解分の光日

スペクトルの色は他の色を混ぜず鮮明・純潔であります。之を飽和色といひます。飽和色に他の色を加へますと種々の色が出来ます。

- (1) 飽和色 + 黒色 || 黒味色
- (2) 飽和色 + 白色 || 白味色
- (3) 飽和色 + 灰色 || 破調色

四原色

赤・緑・黄の三つの色光を適當の割合に混ぜるとすべての色が出来ます。故に之を三原色といひます。光線の三原色は之を混合すると白色となります。

染料や繪の具では赤・黄・青の三つを三原色といひます。繪の具の三原色は之を混合しても暗黒色となり、白色にはなりません。

五餘色

甲の色光と乙の色光とを適度に混合しますと白色となります。かゝるときは此等の色を互に他の餘色といひます。餘色は又補色ともいひます。

六色の對比

互に餘色をなす二つの色を並べて見ますと、各が單一なときよりも一層鮮麗に見えるものであり

ます。此の現象を色の對比といひます。

七色と感情

我々は赤い色に對すると何だか興奮的な感情が湧き、青い色に對したときには沈靜的な感情が起ります。今各色について如何なる感情が起るかを示しませう。

- (1) 赤色 熱心・誠心・活動・愉快・權勢。
- (2) 橙色 嫉妬・嫌忌・疑惑。
- (3) 黄色 快活・發展・希望・虛榮。
- (4) 綠色 平和・公平・着實・親愛・成長。
- (5) 青色 沈着・冷淡・靜止・陰鬱。
- (6) 紫色 高貴・謹嚴・優雅・濃厚・華美。
- (7) 黒色 謹直・沈靜・悲哀。
- (8) 白色 純潔・神聖・清楚・歡喜。

同じ色でも濃色は沈着で、淡色は温和であり、明色は輕快で、暗色は莊重であります。

八色の調和



種々の色を組み合わせてみると、何となく快感を與へるものと、然らざるものとがあります。前者を調和色といひ、後者を不調和色といひます。

(1) 同色の配合 或る一つの色と同じ色の黒味色又は白味色を組み合せた場合には概ねよく調和します。之を同色の調和といひます。此の配合は統一はありますが、變化に乏しいですから黒色・白色・灰色等を配合するとよくなります。

(2) 原色の配合 強過ぎて上品ではありません。

(3) 餘色の配合 餘色關係の色は調和します。何れもが飽和色であると鮮明であつて強きに失する感があります。何れか一方を白味色とすればよく調和します。又暗色とすればよろしいです。

(4) 類色の配合 赤と赤紫・青と藍・緑と黄緑・黄と檸檬の如く類似接近の色を配合してもよく調和します。ぼかしても階段的にしてもよろしいです。

(5) 明暗の配合 黒と白とは強いけれども上品であり、互に引立ちます。

問題

(1) 左の色は調和するや。

赤と青

黄と青

緑と赤紫

黄と紫

緑と赤紫

(2) 左の色は調和するや。

赤と黄

赤と紫

黄と緑

緑と青

青と紫

③ 色の調和上如何なる點に注意すればよいでせうか。

④ 先づ左の二點に注意すべきであります。

(1) 色彩の統一と變化。

種々の色が組み合はされて或る一つの模様が出来てゐる場合に、或る一つの色が比較的大きな面積を占め、然も其の色が一部に偏在せず、大體其の全部に行渡つてゐる場合には、其の模様は、其の色によつて統一されてゐる感じがするものであります。此の現象を色彩の統一といひます。統一が極端になりますと單調になりますから、統一のうちに變化あらしめなくてはなりません。統一のうちに變化ある色彩は最も快感を與へるものであります。

(2) 面積の廣さと色彩の濃淡。

面積の廣いものは淡く若くは暗く、狭い面積のものは濃く鮮かな色彩を用ひると落ちついた調和が得られます。

その二 服裝と色合

① 衣服の選定と色合

② 色彩の原理を應用して、衣服の選擇を如何にすべきかを話いたしませう。

(一) 衛生上

- (1) 肌着 白色がよろしい。
- (2) 上着 冬は黒又は濃色、夏は白又は淡色、春秋は兩者の中間のものがよろしい。

(二) 容儀上

(1) 男女・年齢・生活の程度に應じ配色の原理を應用して上品なおだやかな落ついた感じを表現することになくはなりません。

(2) 冬は暖色、夏は冷色。

(3) 各自の皮膚の色に調和するもの。

●暖色・冷色とは何のことですか。

●暖色といふのは赤・橙・紫の如く見て暖かく感ずる色で、冷色といふのは青とか水色の如く冷たく感ずる色のことです。

(三) 經濟上

(1) 染色が丈夫で褪色しないもの。

(イ) 洗濯に對しての丈夫さ。布の一部を洗濯液で濡らし、乾いた白布を壓しあて、見れば之に色の移る程度でわかります。

(ロ) 日光に對しての丈夫さ。布片の一部分を蔽ひ、數時間又は數日間、日光にさらして結果を見ればわかります。濡らして日光に當てると褪色が著しいです。

染料の染色の丈夫さは染め方によるものであります。

染料の質

(イ) 直接染料は洗濯に弱い。

(ロ) 鹽基性染料は日光に弱い。

(ハ) 硫化染料・媒染々料は日光・洗濯共に強い。

染料の何たるかを知ることが肝要であります。

染め方

(イ) 浸染 絲染 絲のまゝ染料溶液に浸して染めたもの。

布染 布に織つた後染料溶液に浸して染めたもの。

(ロ) 捺染 片面染 布の片面に染料溶液又は色糊を塗つて染めたもの。

両面染 布の両面に染料溶液又は色糊を塗つて染めたもの。

浸染は捺染よりも強く、絲染は布染よりも強く、両面染は片面よりも強いのであります。

(2) 落ついた上品なもの。飽きが來ません。流行色などは必ずしも其の人に似合ふものではありません。

せん。一時の現象に止まり、長つゞきはしません。流行を追ふことは不経済であります。

●局部の調和と全体の調和

●我が國の婦人は一枚の衣服、一本の襟については色合のことを氣にかけてゐますが、服装全體に對する色の調和を考へてゐない缺點があります。襟・衣服・帯・羽織・袴等すべてについて考慮しなくてはならぬのであります。

●帽子・傘・靴下・履物・持物等も着物との調和を考へなくてはならないでせう。

●さうです。此等全體の調和を考へなくてはならないのです。なほ注意する人は、環境即ち、室内とか郊外とか、夜とか晝とか、團體員の一人としてとか相手方の人とかを考へます。而してよく調和するやうな色を選びます。

問題

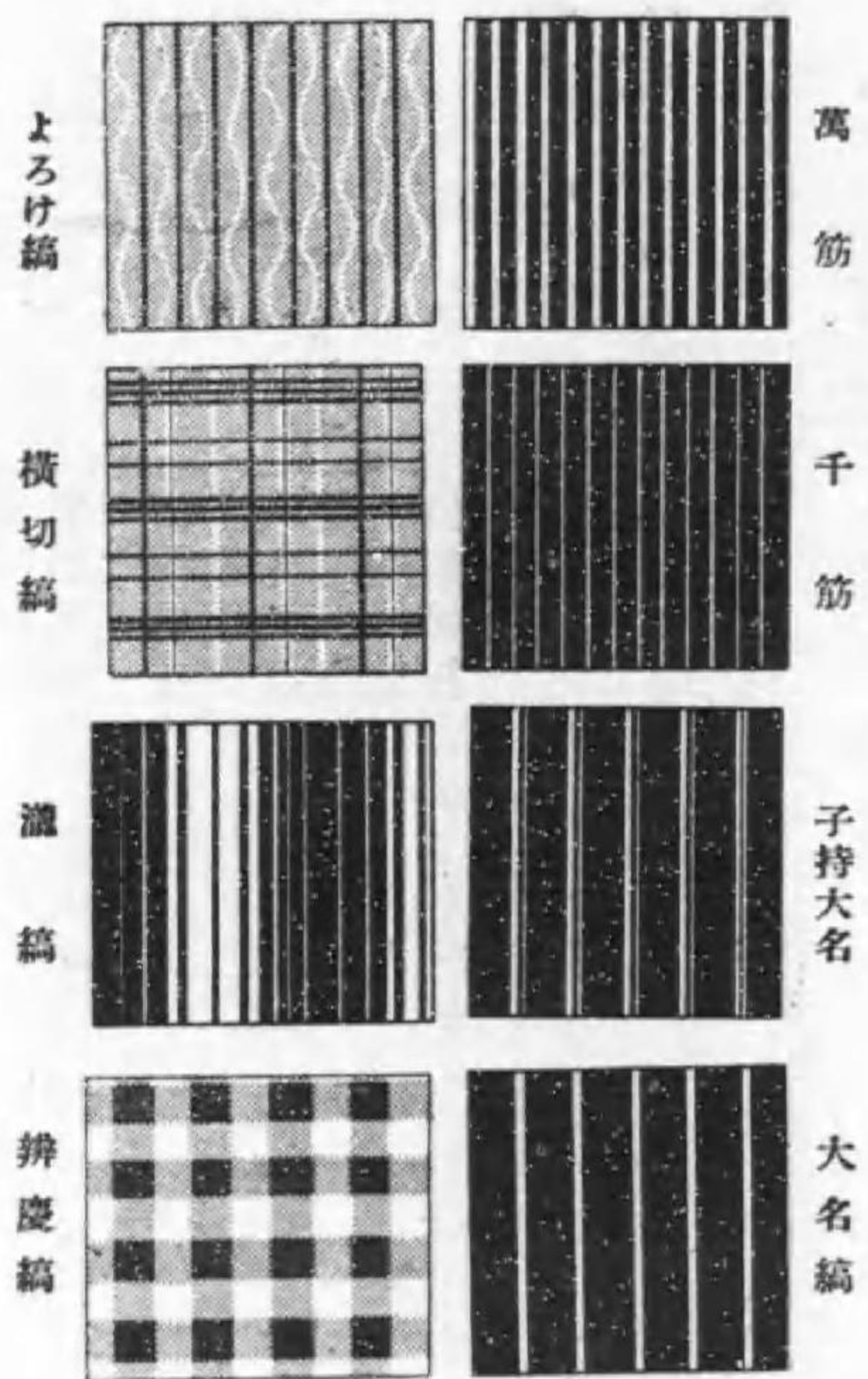
- (1) 各自に似合ふ色を選べ。
- (2) 流行色を追ふことの不合理である理由を述べよ。

第八課柄 合

●柄合

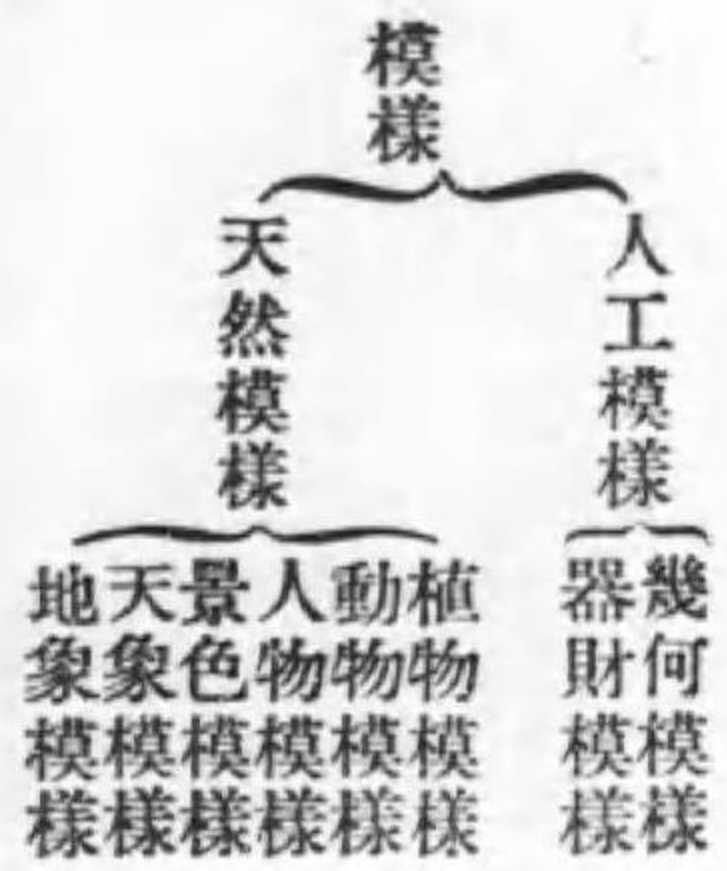
●柄合とは縞・緋・模様等の總稱であります。單に柄ともいひます。

- (1) 白物 精練・漂白を行つた純白のもの。
- (2) 無地物 全體を無地に染めたもの。



柄 縞

- (3) 霜降地
- (4) 縞物 千筋・萬筋・大名・子持大名・棒縞・瀧縞・横切縞・よろけ縞・碁盤縞・辨慶縞等があります。
- (5) 緋物 蚊緋・十字・龜甲・井筒・總菱・井桁・サの字等種々あります。
- (6) 模様物 織模様・友禪染・中形・更紗染・絞染等があります。



②柄合の撰擇

①柄は容儀と關係がありますか。
 ②ありますとも……地質が良くても柄の選定を誤ると仕方がありません。

(1)柄の大小 年齢に比し大柄に過ぎるものは下品であり、小柄に過ぎると引立ちません。

(2)柄の様式 突飛なものは輕薄に見え、平凡なものは趣味に

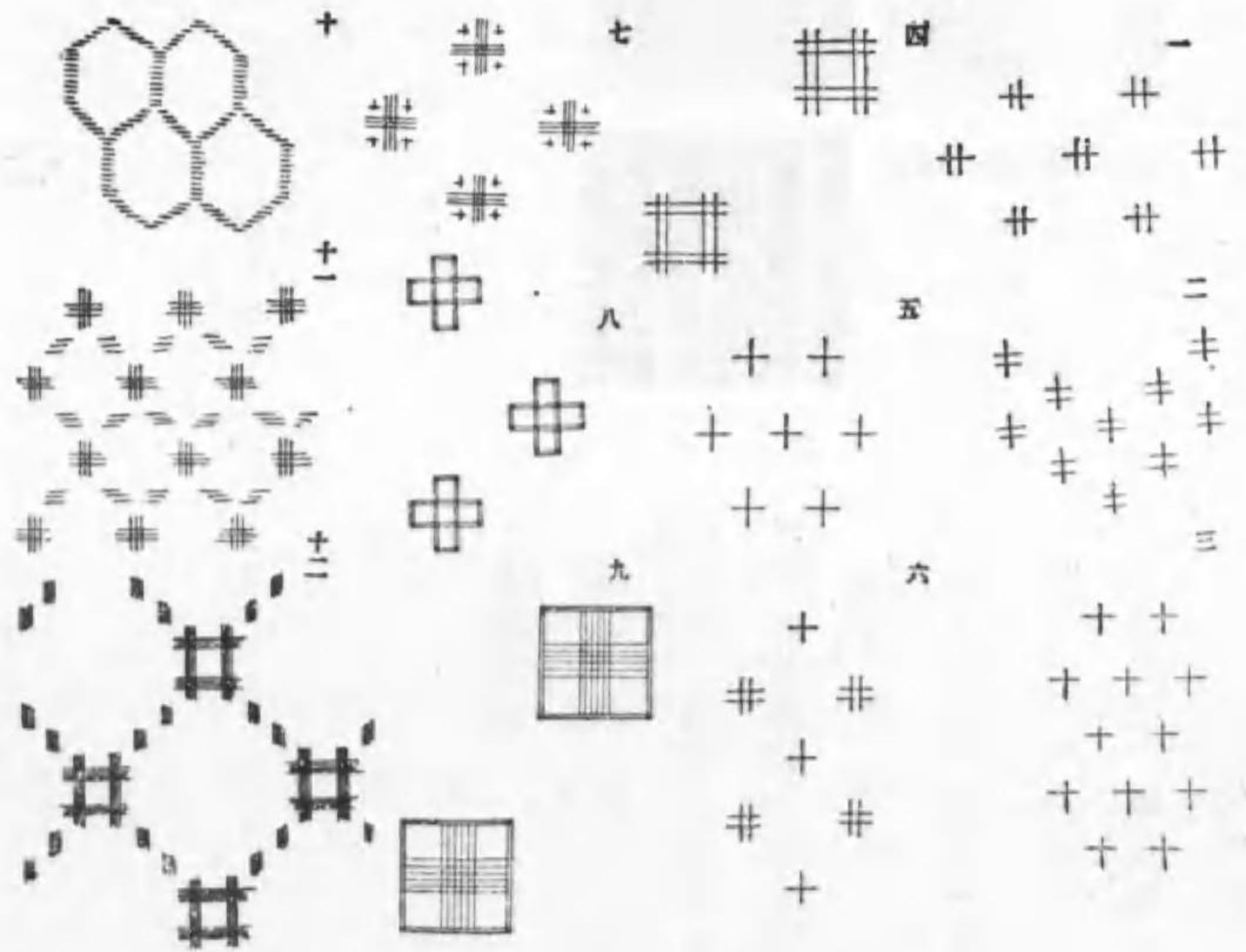
乏しいです。

③柄合の選定の要件を教へてください。

④柄合選定の要件は大體左の如くであります。

- (1)男女 男子は女子よりも地味に目立たぬやう。
- (2)年齢 老人は地味に、若い人・子供ははでやかに。
- (3)體格 肥えて丈の短い人は縦縞がよく、やせて丈の高い人は横縞がよい。
- (4)職業 教育家・宗教家等は特に地味に、實業家・遊藝人等は華かに。
- (5)季節 夏は冬よりもあつさりしたもの。
- (6)用途 禮服・訪問服・平常着等により、それ／＼目的に適合せるもの。
- (7)流行 餘り流行に後れたものは見苦しい。餘り流行を追ふのもよくない。

問題 各自に似合ふ柄合を選定、研究せよ。



- (一) サの字
- (二) キの字
- (三) 蚊
- (四) 井桁
- (五) 十の字
- (六) 親子十
- (七) 米の字
- (八) 籠十
- (九) 田の字
- (十) 龜甲
- (十一) 總菱
- (十二) 龜甲
- (十三) 龜甲井桁

第九課 衣服の調製

●衣服調製の方針

●衣服の調製についての方針は如何でせうか。

●従来の弊を見るべきものを避けて左の如き方針で進みたいと思ひます。

- (1) 衛生的目的を重んずること。着飾るための目的であつてはならぬと思ひます。
- (2) 活動に便利なること。活動に不便なものはいくなくと思ひます。平常着などは殊にさうです。
- (3) 経済的であること。外形美のみにとらはれず実用的で耐久性に富むものがよいと思ひます。
- (4) 必要な數量に止めおくこと。不必要なものを多く購入し、死蔵枚數の多いのを誇るのはいくなくと思ひます。
- (5) 相當の品位を保つに缺陷のないこと。餘り下品なものはよくありません。
- (6) 流行を追はぬこと。流行を追ふのは輕薄でもあり、經濟上からもよくありません。

●それで大體よいと思ひます。調製の費用とか、手段とかに就ては左の如き考慮を必要とします。

(1) 衣服費は毎月家計費の豫算中から支出すること。

(2) 禮服は専門業者に托し、其の他は成るべく家庭で仕立てること。

(3) 簡単な洋服やシャツ類は既製品を購入すること。

問題 既製品と注文品との得失を比較せよ。

●和服と洋服

●我が國の服装は和服と洋服との二つの様式に大別することが出来ます。近頃は洋服が漸次増加いたしました。女子も若い人や子供は洋服を愛用するやうになりました。

●和服は何かにつけて不便ですから……。東京の銀座など歩く婦人は洋装が多いさうです。

●先づ和服と洋服の優劣を比較してみませう。

(和服)

(洋服)

(一) 衛生上から見ると

(1) ゆるやかである。(冬は寒く夏は涼し)。

(2) 重ね着が自由である。

(3) 身體の上下を一樣に被はぬから保温が不平等である。

(4) 女子の廣帯は胸部・腹部を壓し、衛生上よくない。

之に反す。



小兒洋服が輕快です

(二) 容儀上から見ると

- (1) 優美で靜的趣味に適する。
- (2) 色彩の美は世界に誇るに足る。
- (3) 帯や紐でしめつけてゐるから姿勢の變化、又は空腹等のため腹の太さが減じ、着崩れが起り易い。

(三) 活動上から見ると

- (1) 袖や裾が長いから活動に不便であるが休養には適する。
- (2) 座式生活に適する。

(四) 經濟上から見ると

- (1) 安價である。
- (2) 仕立換に便利である。
- (3) 體格の大小に拘はず都合よく身體を掩ひ、肩揚・腰揚等をして身長に適せしめ得るこ

優美でもなく、色彩の美もないが、ボタンやホックで留めるから腹の太さの變化に基因する着崩れはない。

- (1) 活動に便利である。殊に男子の洋服は女子の洋服よりも一層活動的である。
- (2) 椅子式生活に適する。

之に反す。

と。

(4) 一反を單位として賣買されてゐるため不要の布を残すことがある。

但し廣幅物を利用すれば、此の缺點はなくなる。

(5) 汚れ易く洗濯を屢しなくてはならぬ。

(6) 着附に手数が多くかゝる。

③ それならば、和服・洋服の二重生活は如何になるでせうか。

④ 結局は日本化した洋服といふことになるであらうと思ひますが、衣服は住居と密接の關係を有するものでありますから、住居が椅子式にならざる限り、全然洋服化といふことにはなほ幾多の歳月を要することとせう。

現今のまゝでも洋服を活動時に利用し、休養時には和服を用ひるやうにすれば、

(1) 各の衣服の毎日の使用時間を減ずること。

(2) 従つて使用期限を延長し得ること。

により變形の一重生活であるといふ見方もありますが、當分は此のやうな形式で過ぎ行くのではな

いでせうか。將來の問題は婦人の洋服であります。婦人の洋服は男子のそれと異なり、色ばかりでなく、形までも流行に變化がありますから、中々厄介であります。

③ 我が國現在の衣服

④ 我が國に現在行はれてゐる衣服は左の如くに分類することが出來ます。

(一) 禮服

(a) 公式の場合には

(1) 男子服

文武官は一定の大禮服又は燕尾服を着します。

(1) 大禮服

大禮服の附屬品は左の如くであります。

シャツ 白色(釦白色)。

カラー 立襟・折襟。

ネクタイ 白色・紐・蝶形。

靴 黑色總エナメル短靴。

外套 適宜。

手袋 光澤ある白色革製

(2) 燕尾服 (通常禮服) 元來は夜會・婚禮式・婚禮披露・舞踏會・正式の晩餐會等日没後の正式の禮装でありますが我が國では晝間にも着用されることを公定してゐるのであります。

(イ) 部分品

上衣 黒無地絨(鈕はかけません)。

チョッキ 晝間は上衣と同色・同質、日没後は白麻・白絹地で兩前又は片前。

ズボン 上衣と同色・同質。

(ロ) 附屬品

帽 絹高帽。

シャツ 堅胸禮式用白色。

シャツ用釦 白貝又は眞珠製組揃品(胸釦・カフス釦は同質・同形)。

カラー シングル立襟・老人はシングル折襟。

ネクタイ 白麻製蝶結。

手袋 白リンネル製(室内) 白革製(戶外)。

靴下 黒絹製。

靴 夜會靴(正式) 總エナメル黒短靴(略式)。

(2) 女子服

(1) 和服

袷 地質は唐織とし、夏は紗二重織を用ひます。文様・色合には一定の制限があります。

單 地質は固地綾織、紋様は千劍菱、色合は香櫨染・黄丹・忌色の外は適宜。

服 地質は白練絹、夏は晒布麻。

袴 地質は精好、色合は緋とし、切袴。

髪 垂髪、前髪をとります。

扇 檜扇。

履 袴と同色の絹。

(2) 洋服

(イ) マント、ドクトル (宮中大禮服) 頭からチュールを掛け、肩部又は背部からトレーン(裳)を長く曳きます。

頭は寶石・羽毛・造花等を以て飾り、帽子を用ひません。扇を携へ、靴は衣裳と同色の絹地のものを用ひます。首飾・腕環・指環を用ひます。

(ロ) ロ、ブ、デ、コ、ル、テ、ト、 中禮服で日没後の正式の禮装であります我が國では晝間にも着用し得ることに公定されてゐます。夜會服とも稱せられてゐます。

附屬品は左の如くであります。

帽 絕對に用ひません。

靴 絹靴

扇 携へなくともよろしい。

手袋 革製の長いものが正式。

外套 外出に際してはカーブと稱する無袖のものを着用します。

(ハ) ロ、ブ、デ、イ、ネ、 (宴會服) 日没後の略禮服で懇意な間柄の晚餐會等に用ひます。男子のタキシードに相當します。地質は透いて見える程度の薄絹、形状は無袖が正式であります。靴は服に調和したものを用ひます。帽は室内では脱ぎ、外出には被ります。

(ニ) ロ、ブ、モン、タン、ト、 (通常禮服) 晝間の禮服であります。

(b) 民間では、

(1) 男子服

(1) 和服

上着 冬は黒無地 (羽二重・七子) 五つ紋附 夏は淡色無地 (麻) 五つ紋附。

下着 冬は白又は鼠色 (小紋形・更紗形編物を) 夏は白無地。

肌着 白又は鼠。無地の長襦袢。襟は下着・襦袢の色と同色のもの。

帯 角帯が正式。兵兒帯でも差支ありません。

袴 襠高袴を正式とします。

羽織 黒無地五つ紋附を正式とします。羽織の紐は白を用ひます。

足袋 白を正式とします。黒を用ひることもあります。

帽 山高帽。

扇 携へるのが慣例であります。

履 草履が正式であります。天氣の都合では下駄を用ひます。

(2) 洋服

(イ) 燕尾服 (晚餐會・夜會)。

(ロ) タキシード、日没後非公式の禮服。

上衣は地質・色合は燕尾服に同じ。形状は燕尾服の尾部を切つたやうなものであります。

チヨツキ 上衣と同地質黒を正式とします。暑中には變則として白絹製を用ひます。

ズボン 燕尾服と同様です。

附屬品は左の如くであります。

帽 オペラハット又はシルクハット

シャツ タキシードコート専用たる胸に縦襷ある白色シャツ。

シャツ用釦 組揃品(胸・カフス用が同質・同形の品) 金属裝飾があり且つ黒色の配合あるもの。

カラー シングル折襟を正式とし、立襟も差支ありません。

ネクタイ 黒無地絹製蝶結形。

手袋 室内用は白絹製・戸外用は白革製。

靴下 黒絹製。

靴 エナメル黒短靴で先に黒リボンの飾りあるものを正式とします。

(ハ) フロツクコート (通常禮服)

上衣 無地黒絨又は紺絨。

チヨツキ 色・地質は上衣に同じ。夏は白麻・白絹が代用されます。

ズボン 目立たぬ縞。

附屬品は左の如くであります。

帽 絹高帽・山高帽。

シャツ 堅胸式白色のキャラコを正式とし、絹でも差支ありません。

シャツ釦 カフス釦は適宜なるも、胸釦は金を正式とします。

カラー シングルに立襟が正式であります。折襟でも差支ありません。

ネクタイ 色彩・形状は適宜であります。白又は黒は用ひません。凶事には黒無地を用ひます。

手袋 茶色・鼠色の革製、凶事には黒を用ひます。

靴下 適宜

靴 總黒エナメル製横ボタン止又はエナメル付短靴、我が國では黒深ゴムを用ひます。

(ニ) モーニングコート

フロツクコートに同じ、帽は山高又は中折帽を用ひます。

(2) 女子服

(1) 和服

上着 黒又は色物(夏は薄色)の模様物、五つ紋附裾模様を正式とし、三つ紋附裾模様は略式

であります。

下着 白又は上着と同色・同模様、但し上着が黒色の場合は必ず下着に白を用ひます。地質は上着と同地質の絹織物中から選びます。

襦袢 白又は無地の絹織物の長襦袢を用ひます。下着の白の場合は必ず白の襦袢を用ひます。

襟 羽二重の白無地。

帯 丸帯、地質は錦・緞子・縞珍其の他の紋織物、夏は此の外絹・紋透織・紗等を用ひます。

色合は上品なものを選ぶべきであります。

帯揚 白又は紅の無地であります。縞模様は差支ありません。地質は縮緬を用ひます。

帯留 白の丸縮を正式とします。金具附でも差支ありません。

羽織 禮服用の時は用ひません。

履 草履

(2) 洋服

ローブデコルテ・ローブモンタントを用ひます。

(c) 凶事の場合には

(1) 男子服

(1) 洋服

大禮服のときは黒紗を上衣の左腕にまとい、柄も黒紗で巻きます。

燕尾服のときは黒紗を上衣の左腕に纏ひ、又黒羅紗でシルクハットの中帯を覆ひます。

フロックコート・モーニングコートの場合には、チョッキ・ズボンに黒、シャツの胸ボタン・カフボタン・ネクタイ・手袋は黒を用ひます。黒紗を左腕に纏ひ、黒羅紗でシルクハットの中帯を覆ひます。ネクタイピンは用ひません。

燕尾服は其の儘喪章をつけただけで喪服となりますが、フロックコートやモーニングコートは服の一部分と付属品とを黒色としなくてはなりません。燕尾服に黒のネクタイを用ひ、フロックコートに白のネクタイを用ひる等は誤りであります。

(2) 和服

上着は黒の無紋、他は禮服に準じます。

(2) 女子服

(1) 和服

(イ) 袴の喪服 袴は黒椗色・鼠色を用ひ、袴は柑子色・萱草色を用ひます。髪は垂髪を引き、元結は白色を用ひます。足袋も白を用ひます。扇は骨は黒色、地は鈍色、靴は柑子色又は萱草色で

あります。

(ロ) 通常禮服の喪服

上着 黒の五つ紋附又は三つ紋附。

下着 白色、襟 白色。

帯 黒無地の丸帯、帯揚は白、帯留は黒の丸締。

(2) 洋服

衣は黒色とし、地質は適宜、光澤のないものを選びます。黒紗の飾をつけ其他の飾りもすべて黒色とします。

(二) 訪問服

(1) 男子服

和服 縞服又は縞服に羽織・袴。

洋服 モーニングコート・背廣服。

(2) 女子服

和服 縞服又は小紋服に丸帯又は晝夜帯、紋附羽織を用ひることがあります。

洋服 ヴィヂチングドレス。

(三) 日常服

(1) 執務服 動作に便で衛生に適し、質素・安價、且つ丈夫なもの。

(2) 休養服 寛潤・安易、衛生に適するもの。

四 服装改善

(1) 衣服の構造及び様式は衣服本来の職能を顧慮し、徒に舊習にならず、簡單にして製作に手數なく、且つ活動に便なるものに改めたし。

(2) 衣服の裁ち方、縫ひ方及び着方は舊慣に拘泥することなく一層自由にしたし。

(3) 反物は大幅長尺の類に改めたし。

(4) 衣服は成るべく無地型付又は縞物を奨励したし。

(5) 衣服地は木綿と毛織との使用を奨励したし。

(6) 備付衣類の種類及び着数を少くして被服費を節約したし。

(7) 綿入及びかさね物を廢し襦袢及び胴着等にて調節したし。

(8) 男子服は漸次洋服に改め、和服は自宅用に止まらしたし。

(9) 婦人服も漸次洋服に改めたし。

(10) 禮装は上下貴賤に拘らず國民一般に着用を可能ならしむる主意にて次の如く定めたし。

男子 洋服の場合には無地の背廣又はモーニングコート又はフロックコートを用ひ、凶事には之

に喪章をつけ、襟飾は凶事には黒色のもの帽子は吉凶共に山高又は中折、夏は麥稈帽にても可、靴は吉凶共に黒を用ふること。

和服の場合には黒紋附の羽織と袴とを用ふるを本體とし、事情によりては其の何れか一方のみにもよしとする。凶事には喪章を附し、帽子は洋服の場合に同じ。

女子、祝着は無地紋附を本體とし、紋なきも可とすること。

事情已むを得ずば吉凶共に縞物を可とすること。但し凶事には何れも喪章を附すること。

第十課 衣服の着附

① 着附といふのは衣服を着用することです。

② さうです。衣服を身に着けて容姿を整へることをいふのです。我々は衣服を正しく着し、内部的精神を外部に表現し、他人に好感情を興へるやうにしなければなりません。

③ 着附につき注意すべきことは如何なことでせうか。

④ それは衛生上からと容儀上からと此の兩方面から考へなくてはなりません。

(1) 衛生上から

(1) 身體の各部を成るべく一様に被ふやうにすること。子供は運動が盛んでありますから軽く短くするがよいです。

(2) 一般に厚着をいましめ、季節に應じ、調節すること。冬は温く夏は涼しいやうにしなければなりません。

(3) 紐や帯で強く身體をしぼらないこと。強くしぼると身體諸器官の作用を妨げることになります。

(4) 肌着・靴下・足袋・カラー等はたび／＼洗濯して清潔なものを着用すること。衛生上ばかりでなく品位にも關します。

(2) 容儀上から

- (1) 正しく着すること。不自然なのはよろしくありません。
- (2) 色合・柄合等はよく身體に調和したものを着用すること。不調和なものは下品に見えます。
- (3) 着崩れせぬやうに着用すること。着崩れてゐるのは見苦しいです。
- (4) 女子は結髪・化粧等にも注意すること。着物によつて髪のかき方を變へたり、化粧の方法を變へたりしてよく調和するやうにしなければなりません。

第十一課 服装附屬品

● 服装附屬品といふのはどんなものをいふのでせうか。

● 帽子・履物、其の他の持物でせう。

● さうです。これから其の一つ一つについてお話致しませう。

● 帽子

● 日光の直射を避け、寒さを防ぎ、容姿を整へるため私共は帽子を用ひます。

(1) 原料は耐久のものを選ぶこと。

(2) 形状・色合等は用途に應じ、又自己の容姿に適するものを選ぶこと。

● 帽子の手入は如何にすればよいでせうか。

● 常に塵埃を拂ひ、濕つたときはよく乾かし、フェルト製や毛絲製のは虫害を受けないやうにします。

● 傘

● 洋傘と和傘とがあります。

(1) 和傘、紙と竹とで作ります。雨傘と日傘との別があります。和服との調和がよろしいけれど

も、耐久性に乏しく、携帯には容積が大きく重いから不便であります。

(2) 洋傘、布と金属と木とで作ります。

雨傘は黒色のものが多いけれども、婦人用の日傘には白色・黒色の外種々の色合のものがあります。男子は洋服の際は黒色の洋傘がよく調和します。女子が日傘として用いる場合には、各人の皮膚の色や服装との關係や、好みに應じて適當のものを選ぶべきであります。

④ 日傘の色は白又は之に近い淡色は涼しく、黒又は黒に近い濃色は暑いと思ひますが、之と反對に書いてある書物を見ましたが如何でせう。

⑤ あなたは着物の白と黒とを知つて居られるが、着物の白と黒と日傘の黒と白とは其の趣がちがつてゐることを知つて居られないやうです。

白地の布は黒地の布に比べて輻射熱をよく反射し又よく通過させます。黒地の布は輻射熱をよく吸収し、餘り通過させません。黒地の着物でありますと、輻射熱を吸収しますから着物の温度は高まり、身體が之に觸れてゐますから暑さを感じるやうになるのです。夜間や室内では白・黒何れでも大したことはありませんが、夏の日中など著しい差があるのであります。ところが、洋傘の場合には……。

⑥ わかりました。布地其の物の温度は黒布は勿論白布よりも高温度であつても洋傘の場合には身體

に直接に觸れてゐませんから熱は我々に餘り影響しないのでせう。白布は輻射熱を通過させますから暑いわけです。

⑦ さうです。それに白地のものは概ね黒地のものよりも薄地の布がつかつてありますから、輻射熱の通過といふことが一層甚だしいのです。白い洋傘は黒い洋傘に比べて日陰をつくる役目を十分に果たさず、従つて暑さも一層甚だしいのです。「日傘の色は黒又は之に近い濃色は涼しく且つ日焼が少なく白又は之に近い淡色は之と反對で日除としての効果が少ない。」といふことはまちがひないことです。日傘は暑い、涼しいといふ關係ばかりでなく、服装との關係もありますから適當な色のものを選ぶがよいと思ひます。

傘は使用後は十分手入して保存しなくてはなりません。濡れたときは十分に乾かさなくてはなりません。

⑧ 足袋・靴下

⑨ 足袋は男子は黒又は白を用ひ、女子は概ね白を用ひます。白のは汚れが目立ち易いから衛生上其の他特に清潔を貴ぶ場合には最も適當であります。たび／＼洗濯しなくてはなりません。ある校長さんが婦人會で奥さんの洗濯自慢を話されたさうです。

「私の妻は洗濯が實に巧い。足袋の十足や二十足は直ちにきれいに洗ひます。」……………

すると自慢話がしやくにさはつてゐた一婦人が、突然起立して、

「先生まつてください。主婦たるものが足袋を十足も二十足も一度に洗ふやうにためておくことは如何なものでせうか。」

と突込んだのです。校長さん口がきけずたゞ目をバチ／＼させてゐたさうです。

四靴下

靴下には原料・形状・色合等によつて其の種類が甚

だ多くあります。色合などは洋服の色との調和を考へなくてはなりません。染色の丈夫なものでないと足に色がついてきたないです。白又は淡色のものはよく洗濯しないと汚れが目立ちます。殊に靴下に穴のあいてゐるのはよくないです。男子など靴を脱いで上らなくてはならぬ所へ行くときは特に注意しなくてはなりません。自己は勿論妻君の人格までもおとすことになります。

五下駄

下駄の得失を考へて御覽なさい。

下駄は安價で誰の足にも間に合ひ、はいたり脱いだりすることに便利であります。耐久性に乏しく抜け易く、足袋でもはいてゐないと足が汚れます。活動にも不便であります。

下駄の高く重いものは歩みにくく、鼻緒に注意しないと皮膚を傷け、又脱色するものは白足袋を汚すこともあります。下駄に泥のついたときはよく洗ひ手入を十分にしないでなくてはなりません。

六靴

靴は其の先端の太く、踵の餘り高くないものが衛生上からも活動上からも望ましいこととあります。婦人靴などは全然之に反するものが行はれてゐるのは遺憾なことであります。皮膚を傷け、甚だしいものは足趾が畸形となります。

靴はよく手入をしないと持ちが悪いです。

(1) 成るべく度々磨くこと。

(2) 雨にぬれたときは刷毛に水をつけて泥を洗ひ落とし、縫目に泥の残つてゐないやうにし、爪先を下にして吊し、風通しのよい所で陰干とし、半乾となつたとき日光に當て、乾かすこと。

(3) 時々油を塗ること。



足袋をかす用具

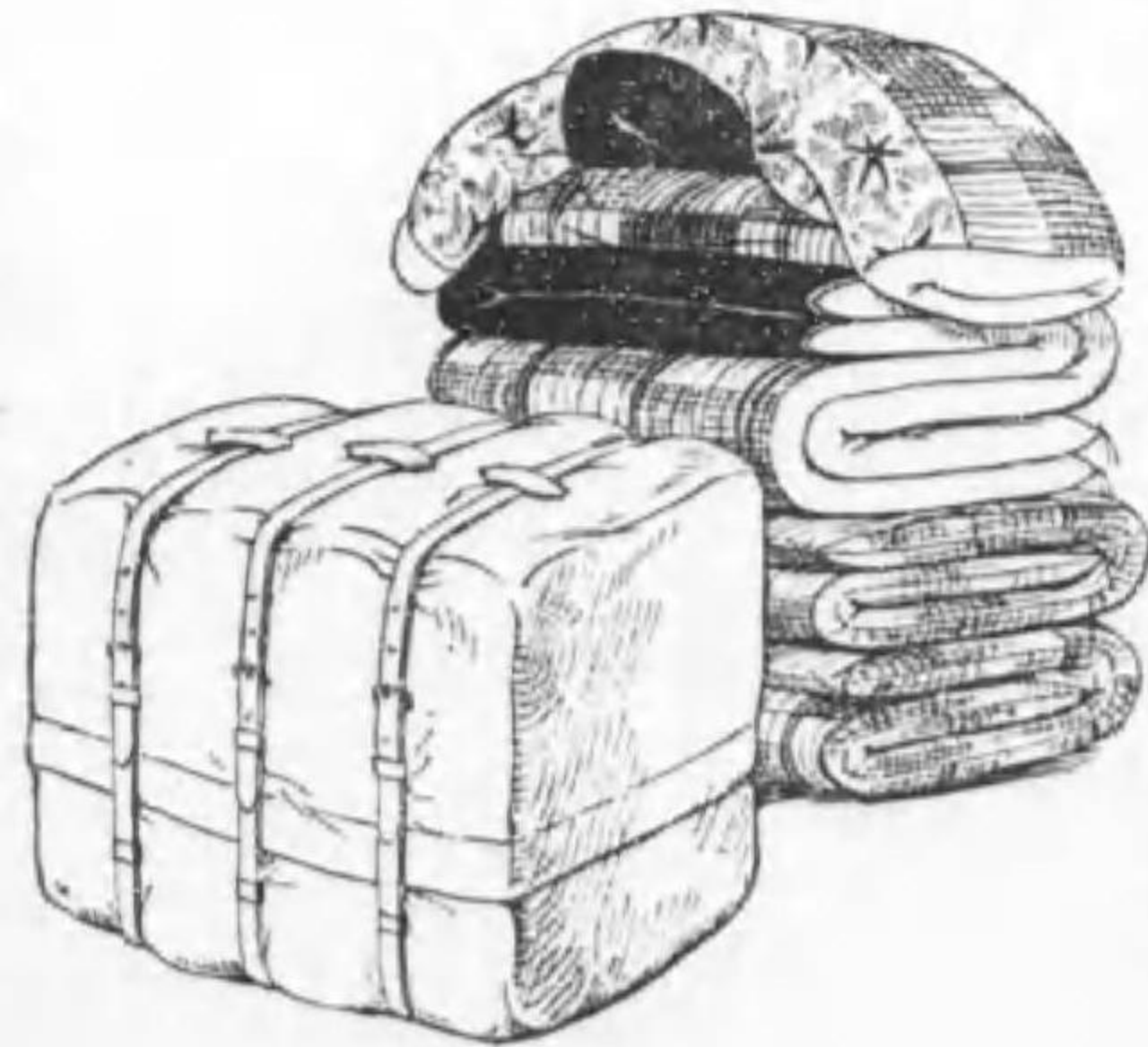
第十二課 寝具と蚊帳

一 蒲團

① 寝具は寝心地のよいものになくはなりません。一日中の疲労は睡眠中に回復せられるものでありますから、軽くて温かいものを選定すべきであります。夏は麻製の蒲團がよいです。

敷蒲團の上には敷布を敷き、掛蒲團の下掛には毛布を用ひるのが普通であります。夜着は袖の如き無用の部分もあり、藏納にも不便であるから改良したがいと思ひます。薄く綿の入つた蒲團様のものにするのも一案であります。

掛蒲團の徒に厚く又は硬いものは身體に密着しませんが、蒲團のまはりに空氣の出入が盛んに行はれ餘り温かくはありません。下掛毛布を用ひ足先や肩のあたりをよく包み隙間のないやうになくはなりません。敷蒲團は硬くなり易いからなるべく厚くしておかねばなりません。



寝具具袋

蒲團は時々日光にさらし、日常用ひてゐるものは一年一回位は蒲團綿の打ちかへしを行はなくてはなりません。寝具の清潔は衛生上ばかりでなく快感の上からも必要なことでありますから、直接身體に觸れる部分は、洗濯し易い白布を取換へ易いやうにつけておくのがよいと思ひます。

二 枕

① 軟かで広く頭に當り、肩のあたりに隙間の出来ないものがよいです。婦人が日本まげに結び、それをこはさぬため箱枕を用ひることは、衛生上からみてよくはありません。

② 空氣枕は如何でせうか。

③ 動搖する所などに用ひますと頭の位置に従つて頭の形に密合して行きますからよいと思ひますが、平常床上に用ひては心地よきものではありません。

三 蚊帳

① 蚊帳には木綿織物で製したもの、麻織物で製したものとがあります。麻織物で製したものは高價ではあるが丈夫であります。色合には白・緑・ぼかし染等があります。蚊帳は使用期の前後にはよく日光に曝さなくてはなりません。

② 蚊帳の大きさをいひあらはすに五、六とか七、八とかいひますが、あれは何を標準としたものでございませうか。

①蚊帳の垂れは曲尺六尺二寸乃至七尺五寸であります。六尺六寸のものが多いやうです。五、六とか七、八とかいふのは布敷をいふのです。五巾と六巾とが五、六、七巾と八巾とが七、八となるのです。六疊には六、八、八疊には十、十が多く用ひられてゐます。

- 五、六（三疊）
- 六、七（四疊半）
- 六、八（六疊）
- 七、八（六疊）
- 七、十（八疊）
- 八、十（八疊）
- 十、十（十疊）

第十三課 衣服の經濟

①我が國民は衣食住のうちで何を節約すべきか。換言すれば節約の餘地あるものは何でせうか。

②〇〇の着たふれとか、〇〇の食ひたふれとかいふ諺がありますから、衣服か食物かでないでせうか。

③節約といふと直ちに食物の質を悪くするのは保健上よくないことです。

④榮養學上の見地から保健食をしないでなりません。衣服は衛生上容儀上の目的に適合すればよいのでありますが、動もすると華美に流れ、或は必要以上の枚数を死藏する等不經濟此の上もないことをしてゐます。節約は先づ衣服の方面に在りといはねばなりません。

⑤衣服の經濟の方法を教へてください。

⑥衣服の經濟として研究すべき方面は多々あります。

(一)衣服材料の節約 我が國は天然の資源に乏しく、衣服材料としては絹の外は多くは其の原料を外國から輸入してゐます。それでありますから用布をなるべく節約しなくてはなりません。

(1)一反を單位とする制度を改良し、必要だけの長さを賣買すること。

(2)廣幅物を利用すること。

(3) 縫込み、縫上げ、端折等を少くすること。
(4) 女の帯は改良帯を用ひること。材料の節約ばかりでなく着附の時間の節約となります。
(二) 衣服の数の節減 我が國は春夏秋冬氣候の變化が甚だしいのと、風俗・習慣上からとて多くの種類を必要といたしますが、衛生上、容儀上、美的趣味上缺陷のない限りは、其の種類並に其の数を減ずることが急務であります。

(1) 衣服の種類を減ずること。禮服・訪問服・平常着等の各種類毎に和服と洋服とを調製することは衣服の二重生活でありますから、男子であれば禮服・訪問服は洋服とし、平常服は和服とすると、子供はすべて洋服とすると、其の種類を整理すべきであります。

(2) 各種の衣服とも其の枚数を減ずること。各種衣服の枚数は必要限度内に止めるやうにしたいものであります。女子は訪問服などを幾枚もつくり、其の枚数の多きを誇る傾向のあるのは遺憾なことであります。女學校では近頃制服が出来てよくなつて参りましたが、以前は華美な女學校では、同じ着物をつけて着て登校いたしますと、

○○さんはお人形さんね。

といふさうです、きれいなといふのかと思ふと、着物が變らないといふのださうです。いやなことではありませんか。

(3) 重ね・綿入等は廢して洋服の下着を利用して體温の調節をはかること。

④ 衣服の種類並に枚数を減ずることは、材料の節約ばかりでなく他に幾多の利益があります。わかりますか。

⑤ 氣がついた所をいつてみます。

(1) 容器が少くてすむこと。

(2) 出し入れの時間が少くてすむこと。

(3) 手入・保存の勞が省けること。

即ち、金銭上の經濟ばかりでなく時間上、勞力上の經濟となり、家務處理の能率を高めることが出来るのであります。

⑥ それでよろしいです。

(三) 材料の選定並に手入保存の研究

(1) 地質・色合等は衣服の使用目的に合し、且つ耐久性のものを選ぶこと。

(2) 直ちに飽きの來るやうな流行的のものを避けること。

(3) 洗濯・汚點拔を合理的に行ひ、虫害を防いで衣服の壽命を延すこと。

(四) 材料の繰廻し

- (1) 衣服は時々縫ひ直して布の弱つた所を巧みに繰廻し、又裏返しをすること。
 - (2) 褪せたり、流行後れとなつたものは色揚げ・染替等を施し、再生の途をはかること。
 - (3) 和服材料を洋服に、大人服を子供服に縫ひ直し、半襟・ネクタイ等の不要品を利用すること。
- 廢物利用の方法を講ずるのです。但し再生利用に費す時間と勞力を考へ其の得失を決すべきであります。

(五) 材料の購入 衣服材料を購入する際には、其の時期や、商店の信用を考へなるべく良品を安價に購入することが肝要であります。

(1) 百貨店の特賣品などにはよいものもありますがよくないものもあります。

(2) 流行品は高く季節後れの品は安いです。

(3) よく賣れる信用ある店の品にはインチキなものは少ないです。

(4) 公設市場のものは高くはないです。

茲に一つ買物について面白い話があります。東京の或る百貨店で「一圓浴衣」を賣出しました。郊外に住むサラリーマンの奥さん連中が申合せて買ひに行つて見ますと「一圓浴衣」は賣切れとなつてゐました。毎朝先着百人だけに一圓で賣つて賣切れとするのであつたのです。翌日早く行つて、「一圓浴衣」を買ふことに成功し安かつたと喜んでゐました。

所が之を聞いた或る家事經濟學者はいひました。「此の奥様達は全く成つてゐませんネ。……二度の往復の電車賃を加算することを忘れてゐるのですから……。」と世には或る一點のみを見て足下に大穴のあるのを忘れて家計の失敗を招く人が多くあります。

第十四課 衣服の保存

⑤ 衣服を清潔にしてよく乾かし、形をくづさぬやうに容器に納め、防蟲法を施すことは衛生・容儀・經濟の上から見て肝要なことであります。

- (1) 衛生上 地質を損せず、汚れを防ぐ。
- (2) 容儀上 不用の折目又は皺を生ぜしめず、變色を防ぐ。
- (3) 經濟上 使用壽命を長くする。

一 清潔

⑥ 衣服を汚れたまゝ、藏つておくと如何なりません。

⑦ 黴が出来まして、それが原因となり、地質・染色をそこなひます。

⑧ それで清潔に保存しておくには、左の如き手段をとらねばなりません。

- (1) 乾燥をよくすること。衣服が雨にぬれ又は汗のしみたときは勿論であります、さうでなくとも、身體から發散する水分・ガス等を吸収してゐますから、風通しのよい所にひろげて乾かさなくてはなりません。衣服に吸収された水分は黴の發育を助けます。害蟲の發育も化學變化も水分によつて促進せられるものであります。

長い間藏つておく前には、半日位乾いた空氣にさらす必要があります。

一年に一回蟲干と共に風通しをしなくてはなりません。衣服の容器も濕氣の侵入しないものを選び、容器の下には枕木をおく等注意して乾燥をはからなくてはなりません。



簡易西洋服の被ひ

- (2) 塵埃をよく拂ふこと。塵埃は衣服地を弱め、變色させますから、衣服を脱ぎ乾燥させた後は刷毛をかけなくてはなりません。
- (3) 汚點は直ちに、抜くこと。汚點は地質を害し、容儀上からも見苦しいものでありますから直ちに抜かねばなりません。
- (4) 綻びや破れは繕つておくことが肝要であります。

(5) 洗濯をよくすること。汚れた衣服を身に着けることは非衛生的であり、又容儀上からもよくないことであります。屢々洗濯を要します。長く藏ふ前には、或は乾式洗濯を行ひ、或は濕式洗濯を行つておかねばなりません。濕式洗濯の場合には糊をつけないでおく方がよいと思ひます。

⑨ 整形 衣服を着ますと不要の皺が出来たり、形がくづれたりします。

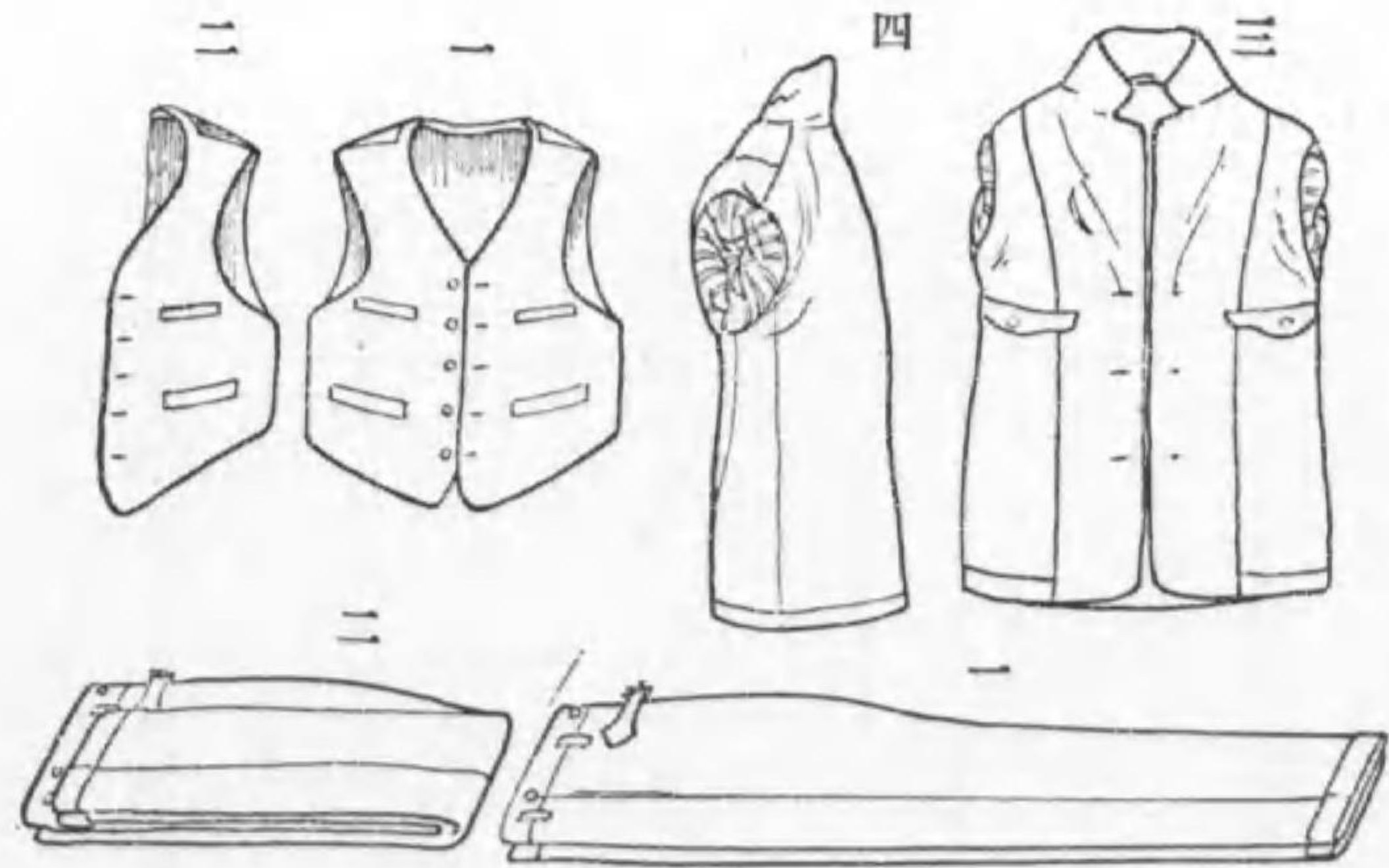
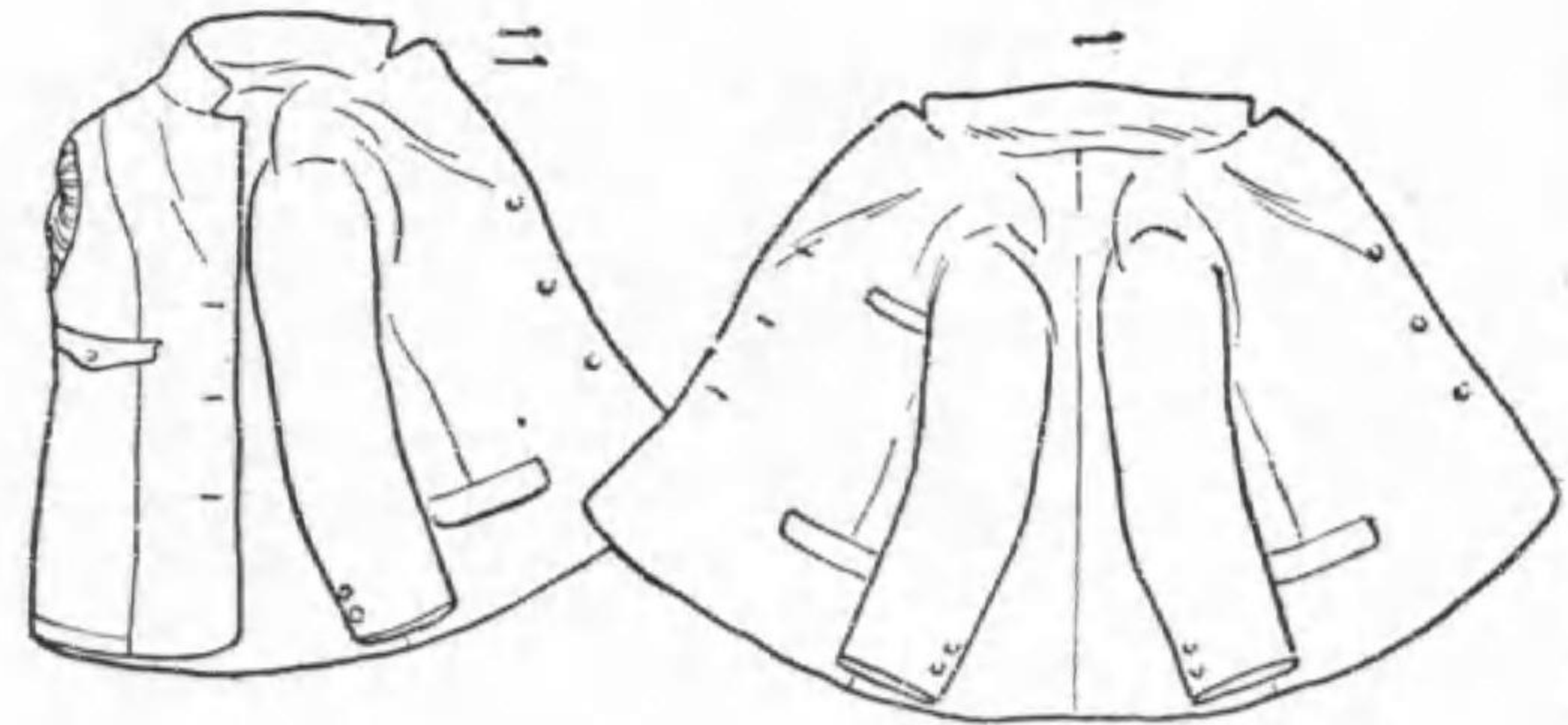
- (1) 手伸・敷伸をしたり、アイロンをかけたりにして皺を伸し、必要な折目を正しくつけること。
- (2) 容器の許す限り、成るべく大きく疊むこと。

③ 整形といふことは、容器と大なる関係があると思ひますが如何でせう。

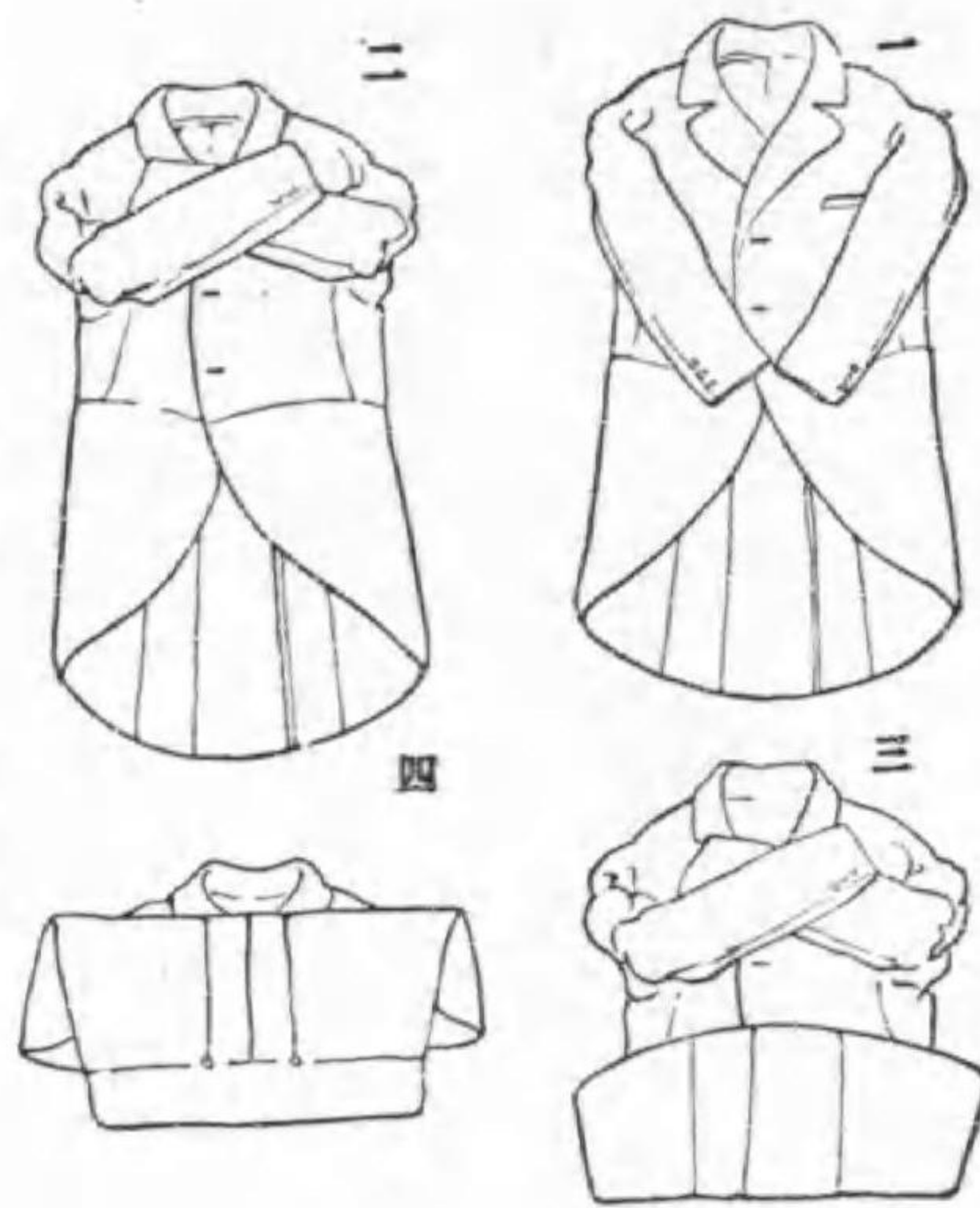
④ 容器は勿論、容れ方にも関係します。

⑤ 容器

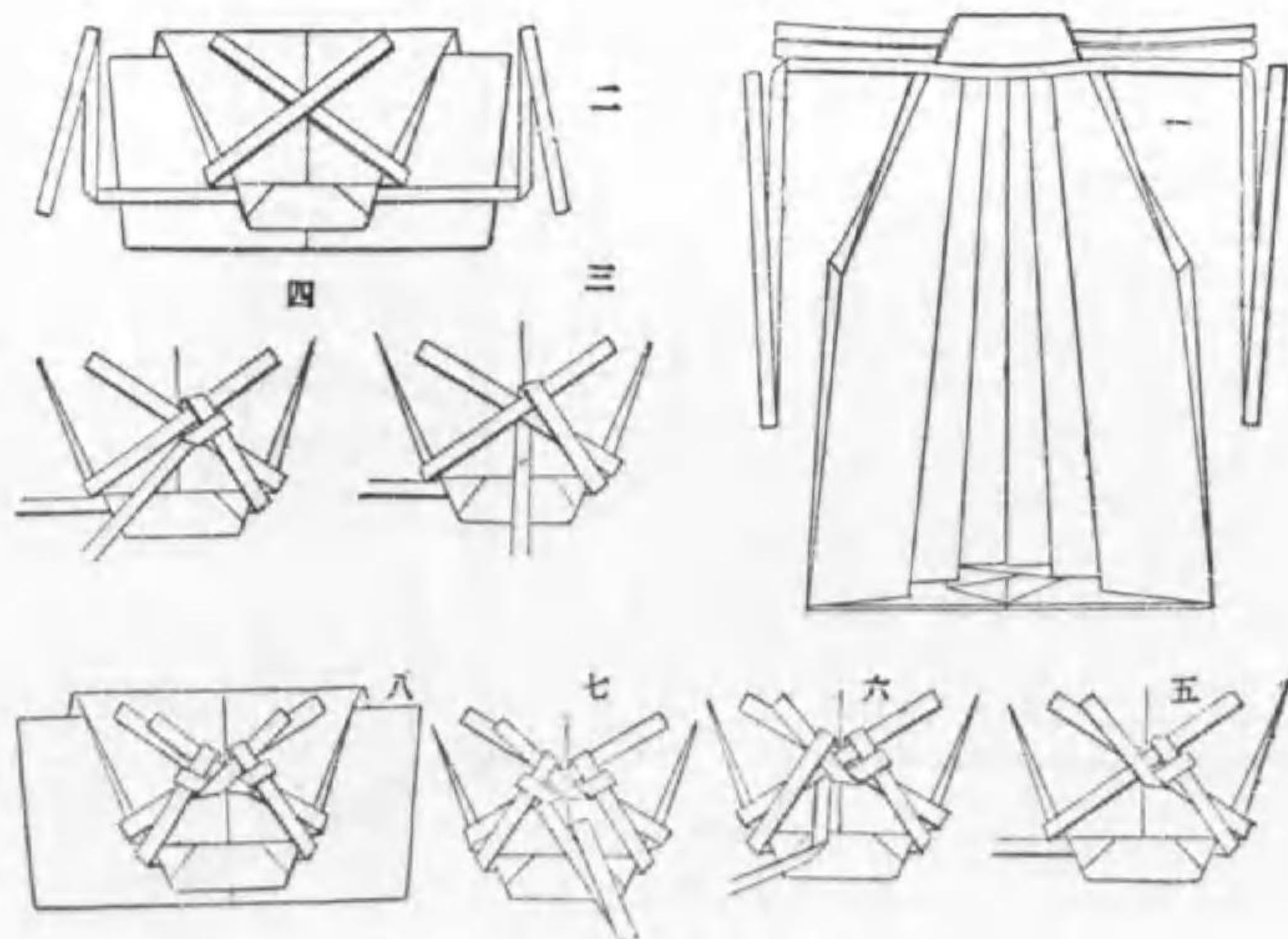
(1) 箆筒 用材は桐が軽くして濕氣を防ぐから一番よいです。日常着用衣服を容れておく



方みゝたの服洋



方みゝたの衣上トコゲンニーモ



方みゝたの袴

になくしてはならぬものであります。

箆筒は其の大きさと深さによつて整形上にならざる得失があります。

- (1) 小ささに過ぎると、……いらぬ折目がつく。
- (2) 深さに過ぎると、……下方の衣服の出し入れに不便であり、又下方のものは強く壓しつけ

られる。

それですから、

和服は改良箆筒に、

洋服は洋服箆筒に、

といふことがよいのです。

問題 改良箆筒・洋服箆筒の長所を問ふ。

(2) 長持 深く大きくて寝具や當分不要の衣類をしまつておくにはよいと思ひますが、場所を広くとりますから不便であります。寝具を運ぶにはズツク製の大きな袋があります。

(3) トランク、毛織物の容器としてはよいと思ひます。鱧皮製・牛皮製等があります。

(4) 行李 トランクと共に運搬用にはよいと思ひますが、衣服の容器としてはよくはありません。柳製のものは竹製のものよりも稍

高價でありますが丈夫であります。

四藏・納

藏ひ方は大に研究しなくてはなりません。先づ衣服を分類し、容器の引出しを別にします。

(1) 様式によつて 和服と洋服。

(2) 地質によつて 木綿織物と麻織物・絹織物・毛織物。

(3) 用途によつて 日常服・訪問服・禮服。

(4) 持主によつて 主人用・主婦用・太郎用・花子用等。

何故でせうか。

保存上からも、使用上の便利からも、分類して藏つておくのがよいと思ひます。

次に正しく疊まなくてはなりません。

(1) 和服 折目正しくたゝみ、袖口の如く特に厚い部分は積み重ねるときに互ちがひにし、一部分が強く壓しつけられるのを防ぎます。上等の衣類の襟や紋所には柔かな白紙を當て、おきます。

(2) 洋服 上衣は洋服箆筒を利用すれば疊まないで吊り下げますがトランクや普通の箆筒に藏つておくならば疊まなくてはなりません。ズボンは折目正しくアイロンをかけ一番下に容れ、次にチヨツキ、其の上上衣を容れます。



衣類整理の仕方

和服でも洋服でも、餘り多く積み重ねないのがよいのです。それから容器の置場でもあります。容器の置場は日光の直射せず、通氣のよい所を選ぶべきであります。濕氣のある所はよくありません。濕地の家ならば容器の下に枕木をおく方がよいです。通氣のわるい土藏などに藏くつておときは日中は窓を開いて通氣をはかるとよいのです。

五防 蟲

① 防蟲よけのために如何な方法が行はれてゐるでせうか。

② 普通家庭で行はれてゐるのは、概ね左の如きものかと思ひます。

(1) 蟲干をすること。

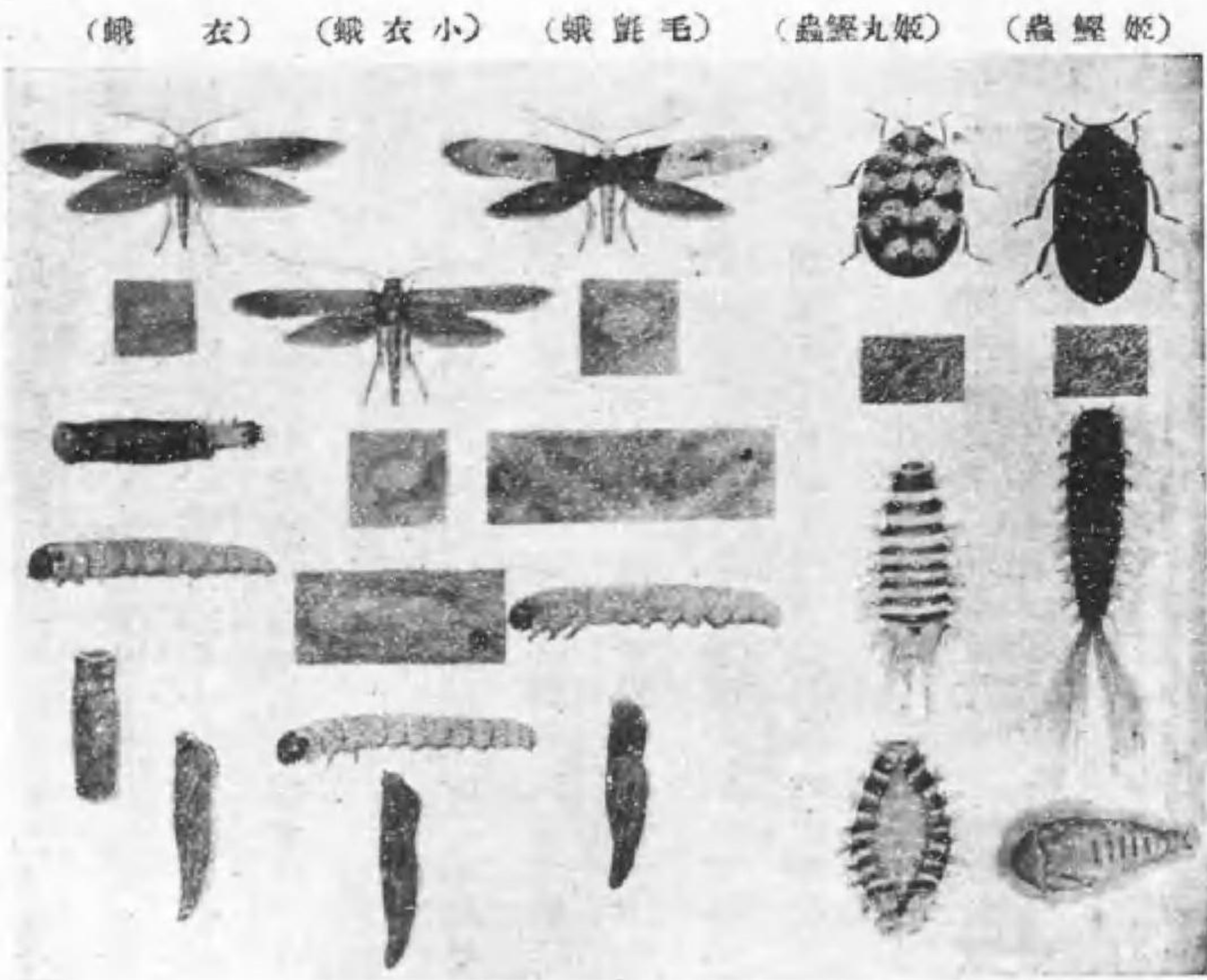
(2) 防蟲劑を入れておくこと。

(3) 容器を密閉し、害蟲の侵入を防ぐこと。

③ 我が國の婦人は防蟲を機械的に行つてゐるやうであります。如何なる蟲が衣類を害するかを知らぬ人さへあります。

(1) 糊氣のあるもの 衣魚が之を害するのであります。衣魚は變態せず又飛びもしません。

(2) 毛織物を害するもの 衣蛾・小衣蛾・毛氈蛾・ひめ丸蠶蟲・ちび丸蠶蟲等。幼蟲・蛹・成蟲と變態し、成蟲は飛んで衣服に卵を産みつけます。幼蟲が織物を喰害するのであります。



衣類の害蟲

④ 以下各害蟲につき大要を説明しておきます。

(1) 衣蛾 體長五耗、翅の開張九耗位、麥稈色で光澤があります。前翅には稍、圓形の暗褐斑を有し、後翅は淡色で後縁には總狀の鱗毛があります。

成蟲は五月中旬頃から十月中旬頃まであらはれ、室内を飛び、雌は幼蟲の食物となる毛織物・獸毛・羽毛・毛皮等に卵を産みつけます。卵は十二、三日で孵化します。孵化當時の幼蟲は、無色長形で、直ちに絲を吐いて小さい圓筒形の鞘をつくり、其の中に棲息します。時々半身を現はして食を攝るのであります。移動は鞘をつけたまゝであります。成長するに従ひ鞘の一侧を縦に切り開いて之を廣め、其の切口に食餌とする纖維を當て吐絲で

綴ります。成長した幼蟲は體長が約七耗あります。鞘の内で蛹となり、約十四、五日で成蟲となります。發生は一年一回で冬は幼蟲状態で越します。

喰害期は幼蟲時代で、四月から十一月頃までが最も盛んであります。喰害物は羽毛・獸毛・毛織物・毛皮・毛絲竝に動物標本等であります。

(2) 小衣服 體長は約六耗、翅の開張は十耗位であります。前翅は細長く淡黄色で斑紋はありません。後翅は前翅よりも淡色で、頭部は少しく赤味を帯びてゐます。一年二回の發生で、第一回の成蟲は四月末からあらはれ、卵は一週間内外で孵化し、幼蟲は七月中頃蛹となり、約十日間で第二回の成蟲となり、産卵し、卵は約十日で孵化し、幼蟲のまゝで越冬し、四月下旬頃から蛹となり、十二、三日で成蟲となるのであります。孵化當時の幼蟲は淡灰白色で體長は〇・五耗位で衣蛾の如く鞘はつくりません。吐絲で喰害した纖維質を綴り合せて小さなトンネル状の巢をつくり、其の中に潜んでゐます。成長した幼蟲は七耗位になります。トンネル内で繭をつくり蛹となり、成蟲となつて出て來るのであります。幼蟲は往々數十枚も重ねた織物を貫いて喰害することがあります。喰害物は衣蛾と同じであります。

(3) 毛氈蛾 成蟲は暗褐色で體長は約九耗、翅の開張は二十耗位であります。前翅の基部は暗褐色で中央から翅尖にわたつて暗褐色の大小不同の斑點があります。後翅は淡褐色で斑紋はなく、後縁

には總狀の鱗毛があります。成蟲は屋外に飛び出して種々の花に集つて花蜜を吸ひます。雌は毛織物其の他に産卵します。一年一回の發生で六月初旬頃から成蟲があらはれ、卵は十日内外で孵化し、幼蟲のまゝで越冬し、五月中旬から蛹となり、約十七、八日で成蟲となるのであります。孵化當時の幼蟲は灰白色で體長は九耗位で運動は不活潑であります。發育するに従ひ、喰害物の間隙に潜入し、大小の孔をあけます。小衣服と同様に吐絲によつて纖維質を綴り合せて筒をつくり、喰害物は衣蛾と同じであります。小衣服と同様に獸毛・毛氈・毛布・クツシヨンの充填毛等の剛毛を好んで害します。

(4) 姫丸鯉蟲 鯉蟲は鯉節屋で鯉節を喰害するので鯉節蟲といひますが、之には姫丸鯉蟲(ちびま)と姫鯉蟲とがあります。姫丸鯉蟲の成蟲は卵圓形で黒色で、體長は三耗位の小甲蟲であります。頭部には棍棒狀の觸角があります。翅鞘は黄白色の三個の波狀紋があります。一年一回の發生で、五月初旬から成蟲があらはれ、屋外に飛び出て除蟲菊其の他種々の花に集つて花蜜を吸ひます。雌は毛織物や乾魚の類に卵を産みつけます。卵は八、九日間で孵化し、幼蟲となり、其のまゝ越冬し、四月中旬から蛹となり、約十四、五日で成蟲となるのであります。幼蟲は初め運動が鈍く、發育するに従つて喰害品の隙間に潜入して大小の孔をあけるのであります。標本類をあらし、メリスに孔をあけるのは多くは此の幼蟲であります。幼蟲は體長が四耗内外で體は暗褐色で淡褐色の粗毛を密生し、頭部は淡褐色ので白色の短毛があります。腹部の末節は暗褐帶黄色で其の兩側面には、左右

に運動する長毛があります。蛹は幼蟲體の背の中央部が縦にさけて半ば脱皮殻の中にゐるのであります。初め帯黄乳白色で羽化前には暗褐色となります。

喰害期は幼蟲時代で四月から十一月までが最も盛んでありますが、其の他の時でも喰害します。喰害物は衣蛾と同じであります。

(5) 姬鯉蟲 成蟲は暗褐色で體長は四耗位であります。屋外の觀賞植物等に集まり屋内の乾燥してゐる動物性のものには集まりません。然し、雌は幼蟲の食する物に集つて卵を産みつけます。二年に一回の發生で、成蟲は五月中旬に出現し、其の産んだ卵から孵化した幼蟲は其のまゝ越冬し、三、四月頃から又種々の動物質を喰害し、再度其のまゝ越冬し、三年目の五月上旬に蛹となり、次で成蟲となります。幼蟲は赭褐色、胸部・腹部に赭褐色の長短二様の粗毛が密生し、尾部には體長に等しい同色の長毛が簇生してゐます。漸次發育するにつれて食物の内部に潛入して喰害します。絨布は起毛を喰つて組織をあらはすやうにし、メリンス類にはボツ／＼と孔をあけます。老熟すると體長は九耗位に達し、やがて帯黄白色の圓錐形の蛹となります。

(6) 衣魚 衣魚は光澤ある銀色をした體長九耗位の小さい昆蟲であり尾端には長い三本の毛をもつてゐます。久しく藏して開かなかつた書籍・紙綴又は衣類等を出すときにチヨロ／＼出て來ることがあります。此の蟲は、糊・膠又は之に類した物を嘗めるのであります。一般に日光を忌み、陰

濕の古書畫等の中にはよく繁殖します。

● 害蟲の豫防についてお話しませう。

(1) 防蟲剤を入れておく。衣類は丈夫な紙でつゝんで容器に納め、防蟲剤を加へて密閉しておく。防蟲剤としては、ナフタリン・樟腦・ホドヂン錠等が多く用ひられてゐます。蟲除け香錠。ホドヂン錠はパラジクロールベンゾールを主成分とするものであります。パラジクロールベンゾールは殺蟲的効力が最も大であるといふことです。

	(使用) 一立方尺に對する量(單位:瓦)	(箱に入れた) 蟲の數	(死んだ) 蟲の數
パラジクロールベンゾール	一・〇	一三〇	一三〇
樟腦	二・五	一三〇	一〇八
ナフタリン	三・〇	一三〇	三

(密閉後完全に氣化させ十五分間放置して調査した結果)

(2) 毛織物は藏ふ前に熱いアイロン又は火熨斗をかけ害蟲の卵を殺しておくこと。

(3) 蟲干をすること。空氣中に衣服を廣げ、濕氣を去り、黴を防ぐと共に蟲害を避ける方法であります。

(イ) 時期、害蟲産卵期以外の空氣の乾燥してゐる十一月頃の晴天の日を選びます。夏季に行ふと

害虫の卵を産みつけられる虞があります。

(ロ)方法、晴天つゞきの数日後の日中風通しのよい室にひろげて掛け数時間さらします。後刷毛をかけ、微や塵埃を去り、アイロンをかけ皺を伸ばし、容器に納めます。

第十五課 汚 點 抜

●汚點抜の必要

●汚點をそのまま放置しておくことは何でいけないでせうか。
●生汚點をそのままにしておくことは、

(1) 衣服の地質を損じます。

(2) 色合を變じます。

(3) 容儀上からもよくありません。

●汚點が出来たときは直ちに抜きとることが必要です。鉢の如きもの、上に凹ませて張り其の上には水又は熱湯を澤山注ぎかけるとよいのです。時を経ると變化し抜き取り難くなります。

●汚點抜の方法

(一) 溶解法よるもの

(1) 水に溶ける汚點例へば、砂糖・新らしい醬油等



汚 點 抜

の汚點は水に溶かして抜き去ります。

(2)揮發性の溶媒によつて汚點を抜くこと。

(イ)揮發油・ベンゼン・コールタール・脂肪・油・蠟・楮垢・印肉・謄寫版用インキ等。

(ロ)アルコール・樹脂・ワニス・紫インキ等。

(ハ)テレピン油・ペンキの古きもの・ペンキ・印肉等。

白布を數枚敷き、其の上に汚點のある布をひろげ、汚點に數回溶媒を塗りつけ、軽くこすつて溶し、周圍を溶媒でぼかし乾かして後に刷毛をかけるのであります。

(二)酸液によるもの

(1)醋酸 アルカリ・尿。

(2)蓐酸 鐵銹・黒インキ。

下敷の上にひろげ、汚點を稀い酸溶液で溶かし、又は中和し、濕布で布に残つた溶液を吸ひとり、周圍を水でぼかし、アイロン仕上げをするのであります。

(三)アルカリによるもの

(1)アンモニア水 酸・紅・果實汁・茶汁・汗・血液・草汁・酒。

(2)石鹼・炭酸ソーダ液 乳汁・醬油・赤インキ。

方法は酸による場合と同じに取扱ひます。

(四)漂白法によるもの

(1)漂白粉と鹽酸 綿布・麻布の白色のものについた黒黴・黒インキ・染料。

(2)酸性亞硫酸ソーダと蓐酸 絹布・毛織物の白色のものについた黒黴・黒インキ・染料。

右の溶液に汚點の部分に浸して漂白し、白布で布に残つた溶液を吸取り、周圍を水でぼかして後アイロン仕上げをします。

(五)機械的方法によるもの

(1)泥 直ちに水又は石鹼水で洗ふか、其のまゝ捨て置き十分乾かして後揉み又は刷毛で拂ひ落します。乾かぬ前に揉みこすると泥は布目にはいつてしまひます。

(2)蠟・パラフィン 鈍刀で削り吸取紙を布の上において上からアイロンをかけます。

(3)墨汁 乾かぬうちはらば水又は熱湯で洗ひ、乾いた後は飯粒に石鹼を加へてこねたものを汚點の部分の布に包んで軽く揉み、後で水洗をします。

小鳥の糞を水で練つたものを塗りつけ暫くおいて後、飯粒と共に揉みとつてもよいです。

汚點抜の方法に餘色法といふのがありましたが、如何なものでせうか。

汚點の色の餘色に當る稀い染料溶液を塗り、鏝で乾かし、汚點の色の見えなくなるまでくりかへ

す方法であります。

- ① 化學的變化による汚點抜といつたら何々でせうか。
- ② それは今まで述べたもの、中から選んで御覽なさい。
- ③ 生酸によるもの、アルカリによるもの、漂白によるもの、三つでせう。
- ④ さうです。終りに一言いたしておきます。一般に汚點抜については、汚點の性質・繊維の性質・染色の有無等によつて方法を異にするべきで、其の鑑定を誤らぬやうにすることが肝要であります。而して汚點が出来たときは直ちに汚點抜を行ふことです。

第十六課 洗 濯

一 洗濯の必要

① 衣服を着用してゐると何時の間にか汚れるものがあります。

(1) 皮膚から出る脂肪・汗、

(2) 外界からの塵埃、

等が原因となるのであります。

洗濯は、

(1) 污垢を去つて衛生的ならしめること。

(2) 衣服の美觀を回復し、容儀上の効果を收めること。

(3) 衣服の壽命を延長させること。

を目的として行ふのであります。

二 洗濯法の種類

① 洗濯法を大別すると左の二つになります。

(1) 乾式洗濯法 揮發油・ベンゼン等の揮發性物質で污垢を溶かし去るもの。

② 濕式洗濯法 石鹼・布海苔・炭酸ソーダ等の溶液で洗ふもの。

その一 乾式洗濯法

① 乾式洗濯の本質

① 汚れが脂肪や油又は塵埃が脂肪や油で包まれてゐるやうな場合には、之を溶かして布から離すのが乾式洗濯であります。其の順序は左の如くであります。

(1) 布を揮發性の洗濯溶液に浸し、布の汚れを溶かす。

(2) 布を空氣中で乾かし、塵埃を離す。

(3) 仕上をする。

② ドライクリーニングといふのは乾式洗濯のことです。

③ さうであります。乾式洗濯は脂肪・油又は之がために落ちにくくなつてゐる汚れに對しては有効であります、それ以外のものに對しては効果が少ないものであります。

② 乾式洗濯の得失

(長 所)

(1) 地質・染色を害しないこと。

(2) 形をくづさないこと。

(短 所)

(1) 溶媒たる揮發油・ベンゼンが稍高價であること。

(3) 如何なる種類の纖維にも同一の方法が用ひられ、仕上も簡單であること。

(2) 大きな形のは家庭では洗濯が出来ないこと。
(3) 洗濯剤が引火し易いから危険であること。

③ 乾式洗濯剤の方法

① 乾式洗濯には如何なる洗濯剤を用ひますか。

② 大體左の如きものを用ひます。

(1) 揮發油 石油の類で無色で揮發し易く、水よりも軽く、引火し易い。脂肪・油・蠟等をよく溶かします。

(2) ベンゼン 石炭ガスの副産物でコールタールから分離したものであります。外見・性質共に揮發油に似てゐます。

(3) 四鹽化炭素 外見は前二者に似てゐますが水よりも重く、揮發性に富んでゐます。引火性がなく却つて火を消す性質があります。脂肪・油類を溶かします。

④ 四鹽化炭素は引火性がなくすると危険が少なく乾式洗濯剤としてはよいではありませんか。
⑤ ところが價が揮發油やベンゼンよりも稍高いのです。

④ 乾式洗濯の方法

⑧ 全洗と部分洗とに大別し、先づ全洗から説明いたしませう。

(一) 全洗 全洗は家庭では半襟位の小形のものでないと出来ません。

(1) 刷毛で落ち易い塵埃・污垢を拂ひ去ること。

(2) 溶媒即ち洗濯液を入れた廣口瓶に洗濯すべきものを入れること。

(3) 約十五分間浸し、密閉しておく。時々瓶をゆり動かす。

(4) 引き上げて軽くつかみしぼりとし、風通しのよい所にひろげて乾かす。

(5) 刷毛をかけて塵埃を去る。

(6) 仕上は絞・縮緬等は湯伸とし、他はアイロンをかける。

⑨ 廣口瓶を二個用ひ、第一洗・第二洗と分けてゐる人もありますが、あれは何故でせうか。

⑩ それは第一瓶には汚れたものが多く溶けますから、きたなくて布がきれいになります。更に新しい第二瓶を用ひますと第一瓶で溶けなかつたものも溶けるので一層きれいになります。

⑪ きたなくなつた洗濯剤は如何しますか。

⑫ 清浄法を行ひ、再び用ひます。清浄法には種々あります。

(1) 静置法 洗濯剤を瓶に密閉したまゝ、静置しておいて、其の上澄液だけをとつて別器に移しとるのです。

(2) 濾過法 濾紙で濾します。上澄液を更に濾しますときれいになります。

(3) 鹼化法 二%の苛性ソーダ溶液を體積の四分の一ほど加へ、よく振つて静置し、上澄液を別器に移します。前二者よりも更に有効であります。

(4) 蒸溜法 蒸溜器で蒸溜します。最もよい方法でありますが危険でありますから四鹽化炭素の外は家庭で行はないがよいです。

(二) 部分洗

⑬ 布の汚れた部分だけに對して乾式洗濯を行ふのです。

(1) 紙又は布の下敷の上に洗濯すべき汚れた部分をひろげ、綿か布片かで洗濯液を塗りつける。

(2) 汚れを溶かせる液を下敷又は下敷と上から押し當てた他の物に吸収させること。

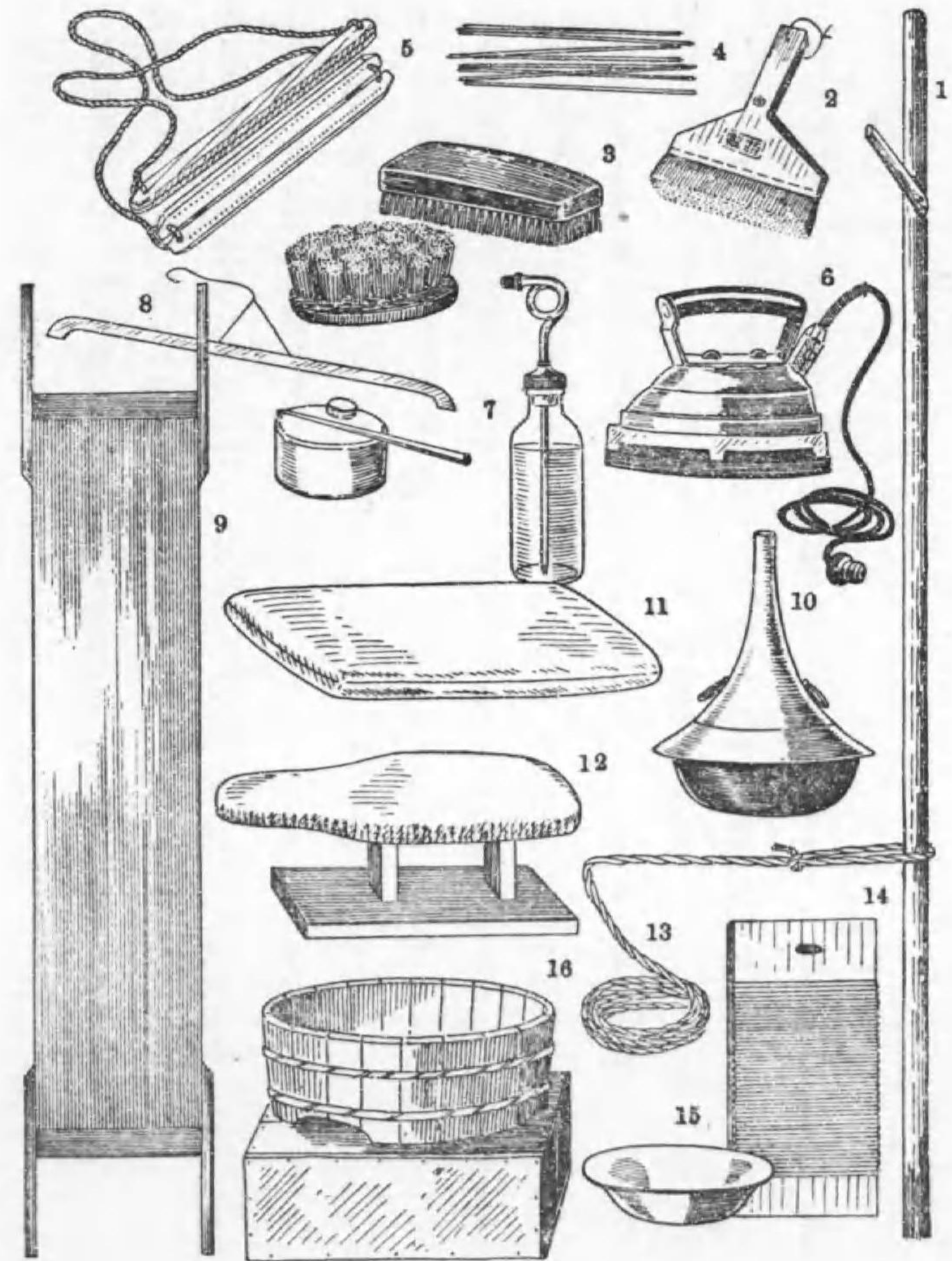
(3) 乾かして後刷毛をかけること。

問題

(1) 部分洗で洗濯液を吸収させることが最も必要な理由を問ふ。

(2) 部分洗をした半襟が汚れ易く、且つ汚れの面積が洗濯前よりも廣くなる傾向があるのは何によるか。

その二 濕式洗濯法



具 用 濯 洗

- (1) 物 干 竿 (2) 引 糊 刷 毛 (3) 洗 濯 刷 毛 (4) 伸 子
- (5) 服 手 (6) 電 氣 アイロン (7) 霧 吹 (8) 衣 紋 竿
- (9) 張 板 (10) 湯 伸 釜 (11) 火 炭 斗 蒲 團 (12) 馬 型 アイロン 臺
- (13) 干 綱 (14) 洗 濯 板 (15) 洗 面 器 (16) 盥

● 濕式洗濯の本質

① 濕式洗濯は水洗濯又は單に洗濯ともいひ、たゞの水又は洗濯劑を加へた水で布を洗ふのです。

(1) 布を洗濯溶液に浸すこと。

(2) 布と洗濯溶液とをすれ合すために布又は洗濯溶液を動かし、又は布と布とをすり合はすため布をつかみ又は揉み、布と刷毛又は洗濯板とをすり合はせるため、刷毛又は洗濯板を用ひなどして、布から汚れを洗ひ去ること。

(3) 糊を入れ、或は其のまゝ乾かすこと。

(4) 仕上をすること。

● 濕式洗濯の得失

(長 所)

(1) 脂肪・油以外の多くの汚れを洗ひ去ること。

(2) 費用の少なきこと。

(3) 洗ふことは簡單であること。

(短 所)

(1) 多少色合を損すること。

(2) 形をくづすこと。

(3) 物によつては仕上に手數がかかること。

● 濕式洗濯劑

(1) 石 鹼 石鹼には固體のものと粉末のものとがあります。其の水溶液は微かな白濁と弱いアル

カリ性とを有し、振ると盛んに泡を立てます。脂肪・油其の他の汚れを洗ひ去ります。

② 石鹼の良否は如何して鑑別しますか。

③ 理科でならひました。石鹼を水又はアルコールに溶かしたとき溶けないものが残ればそれは混ぜ物のある證據であり、又石鹼のアルコール溶液にフェノールフタレインを加へると、赤色を呈するものは苛性ソーダが含まれてゐる證據であります。

問題 アルカリの過分な石鹼は何故に動物性繊維の洗濯に適しないか。

(2) 炭酸ソーダ 無色の含水結晶であるが、空气中に放置するか、試験管内で熱すると約三分の二の水分を放出して白色粉末状の無水炭酸ソーダとなる。水溶液は弱アルカリ性で、脂肪・油等の汚れを落し、又石鹼の助剤となつて大なる効果をあらはすのであります。

(3) 灰 汁 灰を水又は湯に浸して得た上澄液は其の成分は炭酸カリで効力は炭酸ソーダと同じであります。

(4) 布海苔 布海苔と稱する海藻を乾かしたもので、水溶液は中性反應を呈し、脂肪其の他の汚れをよく落します。米のとき汁も中性で洗濯に用ひられます。洗濯の効力は石鹼や炭酸ソーダに劣りますが、色物などは脱色の虞れがありませんから之を用ひるがよいです。

(5) アンモニア水 一種の臭氣があります。炭酸ソーダよりもアルカリ性が弱いです。揮發性に富

んでゐますから、密栓して保存しなくてはなりません。用途は洗濯ソーダと同じであります。

④ 洗濯液

① 洗濯液は水に洗濯劑を溶してつくるのであります。其の水の良否が洗濯に大なる關係があるので、知つてゐますか。

② 洗濯には軟水がよく、硬水はいけません。

③ さうです。今少しそのことについてお話いたしませう。

(1) 硬水 カルシウムやマグネシウムの化合物を溶かして比較的少量に含んでゐる水を硬水といひます。石鹼を溶かしても泡の立ち方がわるく、著しく白濁し、又はカスのやうなものが出來ます。硬水を洗濯に用ひますと、左の如き缺點が生じます。

(1) 炭酸ソーダやアンモニア水を用ひるときには、其の一部分は硬水の軟化に消費せられるから、洗濯劑の効力はそれだけ減少する。

(2) 石鹼を使用する場合には、水に溶けてゐるカルシウム分又はマグネシウム分は石鹼の一部分と化合し、水に不溶性のカルシウム石鹼・マグネシウム石鹼となり、それだけ石鹼の消費が大となり、効力は減少する。又生じたカスは織物に附着し、手觸りや光澤がわるくなる。

(3) 硬水が鐵分を含んでゐると白物は漂白しても純白に仕上らず茶色がかつた色となる。

(2) 軟水 カルシウムやマグネシウムの化合物を溶存してゐない水で、雨水や蒸溜水が其の代表的のものであります。普通に用ひてゐる軟水は蒸溜水の如きものはなく、幾らかカルシウムやマグネシウムを含んでゐます。硬度八度以下位は軟水といつてよいのです。

⑤ 硬度といふのは如何いふことですか。

⑥ 硬度とは硬水の程度をいひあらはす言葉であります。水十萬瓦中に含まれてゐるカルシウム・マグネシウム等の量をすべて酸化カルシウムに換算して、十萬瓦中に酸化カルシウム一瓦を含むものを一硬度とし、硬度の單位とします。硬度のいひ表はし方にも英國式・佛國式・獨逸式とありますが、今説明いたしましたのは獨逸式であります。

(1) 軟水 八度以下 (五度以下といふ人もあります)。

(2) 弱硬水 八度—十二度

(3) 中硬水 十二度—十八度

(4) 大硬水 十八度—三十度

⑦ 硬水の見分け方は簡單に出来ませんか。

⑧ 上等の石鹼を雨水又は蒸溜水に溶し、此の液の少量を試験せんとする水に加へて熱します。

(1) 硬水 白く濁るか又は白いカスが出来ます。

(2) 軟水 殆んど濁りません。

⑨ 硬水を軟化する簡單な方法はありませんか。

⑩ 煮沸すればよいのですが、中々面倒でありますから、通常炭酸ソーダを加へて軟化します。大分わき道にそれましたから、こゝらで濕式洗濯液のまとめをいたしておきます。

(1) 絹・木綿・麻・人造絹に用ひる洗濯液 洗濯ソーダを水一立につき、一—三瓦の割合に加へます。冷水なれば三、四十分乃至一、二時間で軟水に化します。

水の温度が高ければ直ちに軟水となります。軟化した水に石鹼を加へます。

(2) 毛織物に用ひる洗濯液 炭酸ソーダの代りにアンモニア水を用ひます。強アンモニア水を水一立に對して〇・五—一・五CCだけ加へます。液の温度は四、五十度以上にならぬがよいです。

(3) 染色の弱い物の洗濯液 布海苔の如き中性液がよいです。

⑪ 濕式洗濯の一般的順序

① 先づ洗濯の準備をします。それには洗濯物を繊維・色合・用途の上から分類するのであります。

(1) 動物性纖維と植物性纖維 洗濯液を異にすべき故。

(2) 白色物と色物 色物の色が白色物に移る故。

(3) 食卓用の如きものと肌着・足袋類 衛生上よくない故。

準備が出来たならば、次に洗濯にうつります。其の一般的の順序をお話します。

(一) 豫洗 布を水又は稀いアルカリ液に数十分乃至数時間浸しておいてざつと洗ひ、水に溶け又は水でも落ちる污垢を去り、本洗のとき洗濯液が甚だしく汚れないやうにします。

(二) 本洗 布に適當な洗濯液で成るべく布を害しないやうに洗ひます。洗ひ方には種々あります。

(1) 揉み洗 洗濯液の中で手で揉むのであります。繊維と繊維とをこすり合せて汚れを落すので、効果は大であります。布をいためますから、木綿の如き地質の



過ぎ過ぎ 適当 過ぎ過ぎ

丈夫なものでないと應用が出来ません。又一時に廣い面積に行ひにくいから手間どれる缺點があります。

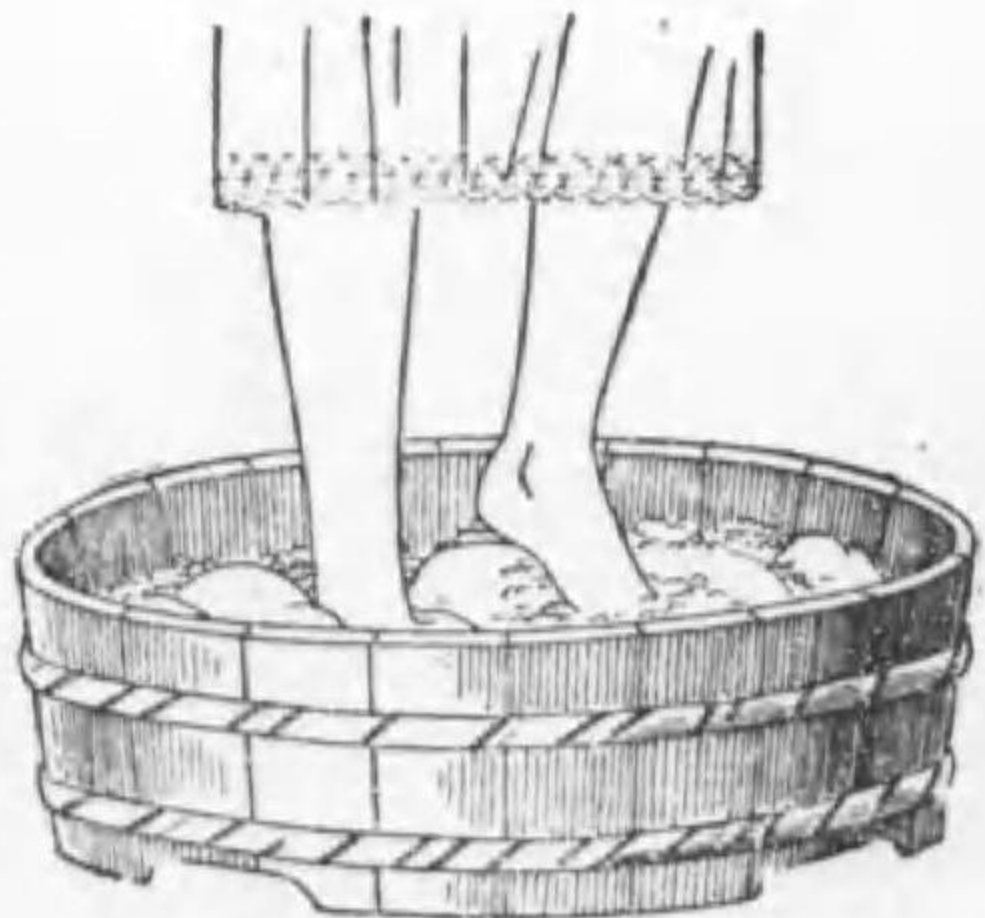
(2) 掴み洗 指でつかむやうにして洗ふのであります。繊維間に含まれた洗濯液に移動を與へて其の流れで汚れを離し去る手段であります。揉み洗では危険である薄物に應用されず。

(3) 叩き洗 洗濯液を繊維に含ませ、手又は棒で叩いて洗ふもので、繊維間の液の移動が急速に行はれる程効果が大きであります。染色・地質の弱いものに應用されず。

(4) 踏み洗 洗濯液の中で足で踏みつけて洗ふもので、洗濯物が大きいか多いときは其の効果が大きであります。踏み洗も繊維間の液の移動により布から汚れを離すのであります。

(5) 振りつけ洗 洗濯液に觸れてゐる布を急速に動かし、液でこすつて汚れを離すのであります。うす地のもの、色の弱いものに應用されます。一般にすゝぎ洗の際はこの方法によります。

(6) 刷毛洗 洗濯液を浸みさせた布を洗濯板の上に擴げて、其の面を刷毛でこすつて洗ふものであります。厚地のもの、染色の堅牢なものに應用されます。繊維の間に深く隠れた汚れを落すことは



踏み洗

出来ません。

(7) 轉がし洗　ギザ／＼の洗濯板の上に洗濯液を含ませた布をおさへ氣味に轉がして洗ふ方法であります。繊維間のすれ合ひ及び繊維間の液の移動が相當に行はれてよい洗濯法であります。布を轉がさずに板にこすりつけるのは地質を損する割合に効果が少ないものであります。

(8) 煮洗　洗濯液と共に釜の中で煮て汚れを落す方法であります。白色の植物性繊維のものに應用せられます。

(9) 洗濯機械によるもの　手動式又は電力によるもの等があります。繊維と繊維、繊維と洗濯液、繊維と器壁との軽い摩擦によつて洗濯が行はれるのであります。

問題

(1) 繊維の種類並に織り方により如何なる洗ひ方を選定すべきか。

(2) 溶けざる汚れは如何にして繊維から離すか。

(三) 濯ぎ・乾燥　數回水をかへて布についた洗濯液をすゝぎ去るのであります。水すゝぎが出来たら壓し又は振つて絞干かします。乾かすには干竿又は衣紋竹を用ひ、戸外の日光に當てます。色物は日光に當てると褪色しますから日蔭の風通しのよい所で乾かします。乾燥は左の條件が備はつてゐるときに速かであります。

(1) 蒸發する表面が廣いこと。

(2) 温度が高いこと。

(3) 空氣の交代がよく行はれること。

(四) 漂白　漂白剤は色素に化學的變化を與へて無色のものとしませす。従つて繊維其の物にも變化を與へて之を弱めますから、繊維の種類によつて適當な漂白剤を用ひなくてはなりません。更に液の濃さ・温度・時間等にも注意を要します。

(一) 木綿・麻織物の漂白

(1) 漂白液のつくり方

漂白粉を白木綿に包み水中にもみ出し、次に重炭酸ソーダを加へます。液の分量は左の如くであります。

(1) 布の目方の約二十倍の水。

(2) 水の目方の千分の五—一〇の漂白粉。

(3) 漂白粉の約二分の一量の重炭酸ソーダ。

(2) 漂白の仕方

(1) 十分洗濯した布を布が液面に出ぬやう漂白液に浸し、時々布を繰り返して十分に白くなるまで

つけておきます。漂白されてゐるのに長く浸しておいてはなりません。

(2) 漂白後十分に水洗をします。

(3) なほ臭氣があるときは水洗した布を次亜硫酸ソーダの稀い溶液(〇・一%)に浸し、更に水洗をしますと臭氣は完全に抜けます。之を鹽素抜といひます。

(二) 絹毛織物の漂白

(1) 漂白液のつくり方

繊維を害しますから漂白粉は用ひません。

(1) 酸性亞硫酸ソーダの一・五—三%の水溶液をつくります。

(2) 水溶液の一—二%の醋酸を加へます。

(2) 漂白の仕方

(1) 此の漂白液の中に洗濯した布を浸し數時間乃至十數時間經過させます。

(2) 漂白後は十分に水洗します。

(3) 日蔭で乾かします。日光に當ると漂白が逆戻りする處があります。

(五) 青味附 洗濯又は漂白した白布に僅かに青味をつけますと一層白く見えます。水洗の最後の水又は糊附けの際の糊液の中に青味劑を加へればよいのです。青味劑には可溶性ベレンス又は靑堇色

の染料を用ひます。

(1) 可溶性ベレンス 安價でありますが鐵の化合物でアルカリに弱いから濃く用ひてはなりません。

濃く用ひると次の洗濯のときに石鹼・炭酸ソーダ・アンモニア等のアルカリ性の物質にあひ青味を失ひ、赤褐色の鐵銹となつてしまひます。

(2) 靑堇色の染料 價は稍高いけれどもベレンスの如き缺點はありません。染料にも種々あります。がアルカリブリウ・アシッドバイオレットの如く洗濯に對して弱いものがよいです。

洗濯に弱いのが何故によいのでせうか。

濃過ぎたときは湯の中で洗へば容易にうすくなりますから……。

(六) 糊附 糊附は洗濯物の形を整へ、汚れを防ぎ、布を強くするために行ふのであります。肌着類・毛織物・麻織物・人絹織物等には糊附はしませんが、其の他のものは糊附をするのが普通であります。

糊の材料と濃さについて教へてください。

糊の材料と濃さを表示してみませう。

(糊の材料)

(1) 米飯糊 (米飯に水を加へ潰して)

(糊の濃さ) (水一立につき) 三〇—五〇瓦

(2) 生 麩 (小麥の澱粉)・銀生麩 (小麥の澱粉から製したものを)

一〇—一五瓦

(3) 姫 糊 (白米の粉)

一〇—一五瓦

(4) 布海苔 (色布又は絹布に適す)

四—八瓦

糊液一立で綿布・銘仙類の一反分につかはれます。

④ 糊が布を硬くする程度は糊の濃さにのみよるものでせうか。

⑤ 糊の質にもよります。

⑥ その他にはないでせうか。

⑦ わかりません。

⑧ 糊をつける布の含める水分の多少並に糊をつけた後の絞り方にもよるではありませんか。

(七) 仕 上

⑨ 布を濡らし、又は高温度に熱して之に新しい形を與へますと外力が去つても原形に復らぬ性質があります。之を可塑性といひます。仕上は此の可塑性を利用し、布に望みのくせをつけ形狀を美化する手段であります。くせをつけるには種々あります。

(1) 壓力を加へ長時間放置しておく。

(2) 濡して皺を伸して乾かす。

(3) 高温で數秒間熱する。

(4) 熱い水蒸氣で數秒間熱する。

仕上法は此等の應用であります。

問題 木綿・絹・毛・人絹・麻の可塑性を比較せよ。

⑩ 仕上の方法を説明いたします。

(一) 手伸仕上・敷伸仕上 手伸仕上と敷伸仕上からお話いたします。

(イ) 手伸仕上とは乾いた布を單に手で引き伸して皺をなほし、形を整へる方法であります。手伸は簡單であります、効果は十分ではありません。

(ロ) 敷伸仕上は一旦乾かした布に軽く霧を吹き、布片に包み、全體に濕りがまはつた後、幅・丈を伸して正しくたゝみ、莫塵の間に挟み、上から重しをかけ其の形で三十分内外を經過させ、後形をくづさぬやうに擴げて竿にかけて乾かします。濕りのために可塑性が増大してゐますから手伸仕上よりも効果が大きであります。

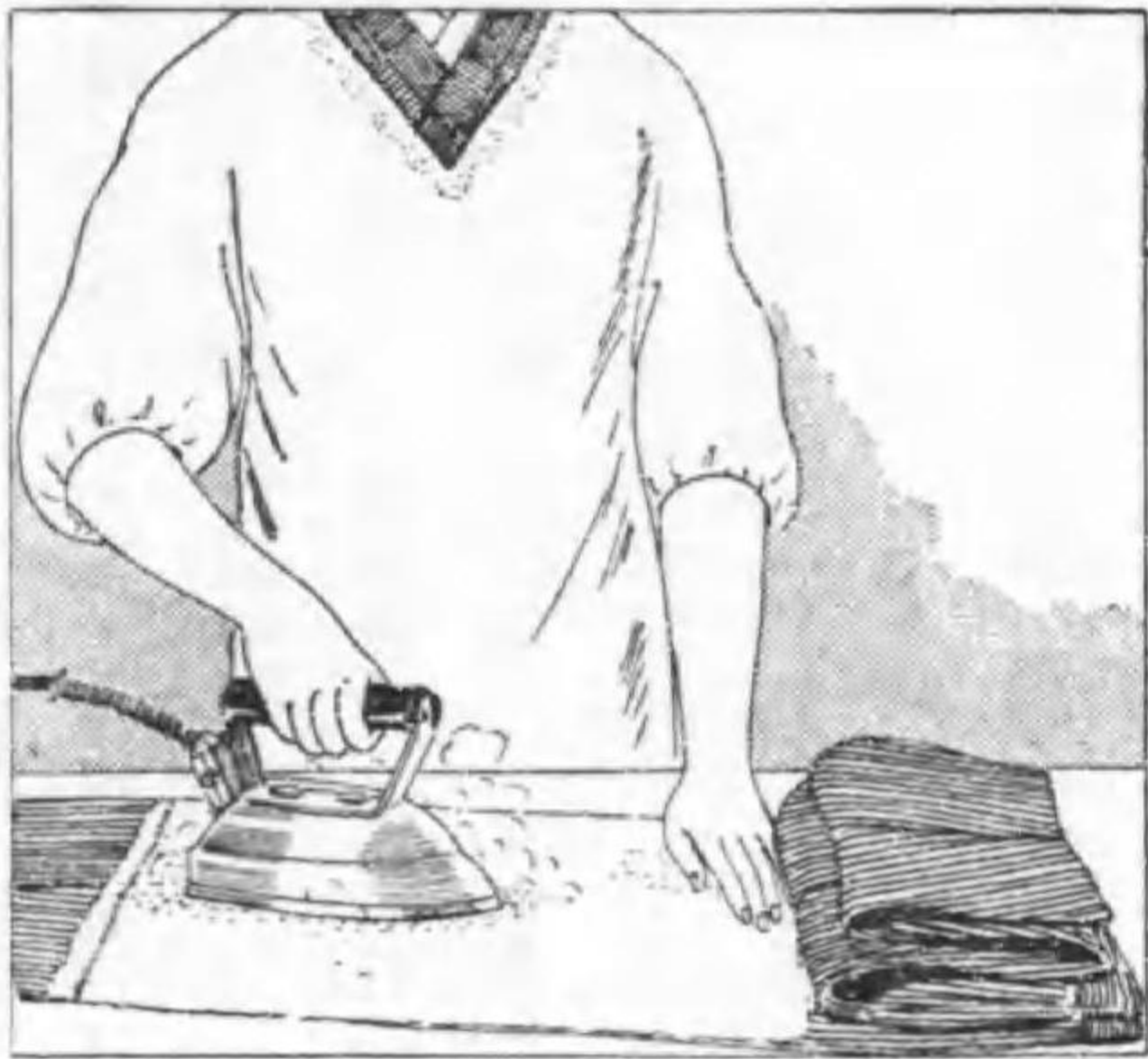
(二) アイロン仕上 木綿織物・麻織物・絹織物等は糊附の後、毛織物は糊をつけずして乾かした後、霧を吹いて布に包み、三十分間ほど經過させ、濕りが全體に行きわたつた時にし白毛布の上に白布を敷き、其の上に擴げて熱したアイロンをかけます。

① 熱と湿りによつて著しく繊維の可塑性が増しますからアイロン仕上は効果が大きのでせうか。
 ② さうです。低温で乾いてゐるときなどは、羊毛は一番可塑性に乏しいのですから、湿りを與へてからアイロンをかけなくては、よくせはつきません。

アイロン仕上について考へておかねばならぬことをお話しませう。

(イ) 適度の湿り 非常に薄い布の外は、湿りが布にないと仕上りがうまく出来ません。水分はアイロンによつて水蒸氣に化し、布を裏面まで蒸し温めます。湿氣が多きに失するとアイロンを早く冷却させ、湿氣が少ないときは水蒸氣が不足しますから皺が伸びません。

(ロ) 適度の温度 アイロンの温度が低いと其の効果が少なく、又高きに失すると布を焦します。布を焦さぬ程度に於てなるべく高い方がきゝめが大であります。先づ二



方け掛のンロイア

百度内外がよいのです。色の美しいものは變色の虞がありますから、熱し方の少し足らぬ位のもを數回かけた方がよいです。

音なし ↑ チツ ↑ ビユツ ↑ ブチツ ↑ バシツ ↑ ブシユツ ↑ チユ ↑ 音なし

(かけられぬ)

(蒸しもの)

(木綿・綿)

(毛織物)

(皺が伸びぬ)

(始め)

これは山崎敏一氏の経験からの説であります。「蒸しもの」とは「蒸しアイロン」のことで湿氣を稍多く與へアイロンによつて水蒸氣化せしめ、それで仕上をすることです。

③ 繊維の種類により耐熱の程度はちがうでせうか。

④ それはちがひますネ。焦げにくい方から申しますと、人絹・麻・木綿・絹・毛の順序です。布片で實驗をして御覽なさい。(各布片を並べておいて熱いアイロンで壓す)。

(3) 適度の速さ アイロンの温度の高低により動かす速度を異にするべきであります。

(1) 早きに失すると 布地の温度が高まらないから可塑性が増大せず、効果が少ないです。

(2) 餘り遅いと 布を焦す虞があります。

(4) 適度の重さ アイロンの重いものは温めるに時間がかかりますが、一旦温まつてしまへば広い面積にきく利益があります。広い面積にかける場合は重い方がよいです。壓力を要するやうな布にも重いアイロンの方がよいです。家庭では電気アイロン五ボンド内外のものが適當であります。

(5) 順序と方向 アイロンをかける順序と動かす方向は豫め考へておく必要があります。

(1) 布に縫目のあるときは縫目の所から縫目に沿ふてかけます。

(2) 二重になつてゐる所は裏を先にかけてます。
 (3) 表にかけるのが普通でありますが、織模様ある布は裏からかけます。

(三) 板張仕上 絹・木綿・絹綿交織物等の衣類を解いて洗濯した場合に布を板に張つて仕上をするのです。糊をつけてするのが普通であります。糊を水張といひます。

(1) 張板をよく拭ひ、きれいにし、之を適當の場所に立てかけ、又は臺にのせます。

(2) 糊液を含んだ布の表は外に向け、裏を張りつけます。糸筋が曲らず、布幅が一様であるやうに張りつけます。

⑤ 手で張りますか。

⑥ 手で張つてもよろしいですが、刷毛で張る方が布が板に平均に密着し、小皺がよく伸びるやうであります。

(3) 水刷毛で其の表をなで、餘分の糊を去り糊むらを直し、小皺がないやうにします。



張板

(4) 日蔭の風通しのよい所に乾かし、乾いたなら注意して剥ぎ取ります。薄地のものは、布の一端を剥がし、棒に巻きつけながら剥がしますと布の破れる虞れはありません。色物はなるべく早く取り入れた方が褪色を防ぐ上からよいです。

⑦ 板張に於て布の裏の方を板に張りつけるのは如何なる理由でせうか。

⑧ 布の表の方を板の面に張りますと、悪光が生じ、乾燥後、布を剥がすときにも毛羽立ち、張板が粗悪なときは、往々に木目がうつるからであります。

(四) 伸子仕上 伸子を張つて皺を伸す方法であります。

(1) 布を縫ひ合せて反物の形として洗濯をします。

(2) 両端に張手をつけ、縄で両方に引張ります。裏を上にしします。

(3) 縫目其の他所々に表になる方に伸子を張ります。之を飛伸子といひます。



伸子仕上

- (4) 布の裏の方から刷毛で糊を引き、表の方から水刷毛をかけて糊むらを直します。
- (5) 左から右へと約三、四廻おきに伸子を張ります。
- (6) 乾いたときは飛伸子だけを残して他の伸子を去り、耳に二廻位の深さに水刷毛をかけます。
- (7) 全く乾き上らないうちに手で引くか、軽くアイロンをかけて耳消しをします。

⑤ 耳消しといふのは？

⑥ 布の耳の凸凹になつてゐるのを正しくなほすことをいふのです。

⑤ 湯伸仕上 百度の水蒸氣にさらして皺を伸し手觸りと光澤とをよくする方法であります。縮緬・天鵝絨・綾等の如く布面を平につぶすことを嫌ふ織物に此の方法が應用されるのであります。毛織物の仕上にもよいです。

(1) 布片を輪に縫ひ合せます。

(2) 湯伸釜に湯を沸騰させます。鐵瓶の口から出る蒸氣を利用してよいです。

(3) 布に丸棒を二本通し、兩方から引張りつゝ、水蒸氣の出口の蒸氣に當てます。

その三 各種織物の洗濯

●木綿織物

(一) 白 布

(1) 豫 洗 布の塵をよく拂ひ、水一立に炭酸ソーダ二瓦の溶液に浸し、揉み洗をして水に溶け又は落ち易い汚れを糊と共に洗ひ去ります。

(2) 本 洗 熱湯(一〇〇度)一立、炭酸ソーダ四瓦(〇・四%)石鹼八瓦(〇・八%)の洗濯液に布を浸し、二、三十分の後に揉み洗・轉がし洗・刷毛洗等を行います。汚れの甚だしいものは洗濯液中で十分間程煮て洗ひます。

炭酸ソーダで軟化した水でよくすすぎ石鹼分を抜き、更によく水洗します。

(3) 漂 白 古い布は水一立につき漂白粉十瓦の溶液に三十分間乃至一時間浸します。布が液面に出来ないやうにします。次に水一立につき鹽酸十瓦の割合の溶液に浸します。水洗後水一立に次亞硫酸ソーダ五瓦の割合の溶液に浸し、鹽素抜をします。鐵分を含む水で洗つた布は〇・一% 蔞酸溶液に浸して鐵分を抜きます。

(4) 青味附 ベレンス溶液又は靑堇染料の溶液で青味をつけます。

(5) 糊 附 生麩十五瓦を煮て水を加へ一立にしたものをつけます。

(6) 仕 上 霧をふきアイロン仕上とします。

① 糊は人によつていろ／＼ちがひますでせうか。或る書物には、

熱 湯 一立 銀生麩 一〇瓦(一%)

白蠟 ○・二瓦(○・二%)

硼砂 ○・五瓦(○・〇五%)

とありました。

●人々によつてちがつてゐます。自分でいろいろ経験してみて、簡単に効果が多いと思ふものを選んで実施して行けばよいです。

(二) 色 布

(1) 豫 洗 冷水中で手早く振りつけ洗をします。

(2) 本 洗 洗濯液は普通、左の割合のものを用ひます。

温 湯 一立(五〇度以下) 炭酸ソーダ二瓦(○・二%)

石 鹼 四瓦(○・四%)

●染色を害してはならぬから、洗濯液をつくるには石鹼液・炭酸ソーダ液・布海苔液等で脱色の有無を検べて見よと或る書物に述べてありましたが如何してしらべますか。

●それは此等の溶液に布を浸し、白い布片に押しつけて見れば、其の色の移る程度でわかります。それによつて、

(1) 水一立につき炭酸ソーダ 五瓦

(2) 水一立につき石鹼 五瓦

(3) 水一立につき布海苔 五瓦

何れかの液を用ひるのであります。

●熱湯は何故に用ひてはならないのでせうか。

●色が褪めるおそれがあるからです。

洗ひ方は刷毛洗がよいのです。揉むと脱色し易いです。

よく水すすぎをして日蔭の風通しのよい所に乾かします。

(3) 糊 附 浴衣・白緋等は白布の如くに糊をつけます。其の他のものは、水一立に布海苔十瓦の割合の糊をつけます。

(4) 仕 上 アイロン仕上・板張仕上・伸子仕上等の何れかによります。

●麻織物の洗濯はどうしますか。

●大體木綿織物に準じて行へばよいのです。麻織物は木綿織物より洗濯液や漂白剤に弱いから、溶液を稍稀くし、處理の時間を短くすればよいのです。

●絹織物

(一) 白 布

(1) 豫 洗 塵を拂つて一時間ほど水又はアンモニア水の稀薄溶液につけておき、振り洗をします。

揉むと絲目が偏る虞れがあります。

(2) 本 洗 洗濯液に二、三十分間つけておいて刷毛洗・つかみ洗をします。洗濯液は、温湯（五〇度位の温度）一立・炭酸ソーダ三瓦（〇・三％）・石鹼六瓦（〇・六％）の割合のものを用ひます。〇・六％の良質の石鹼の微温液にアンモニア水を少量加へたものでもよいのです。初めに温湯を用ひ、後には冷水を用ひます。よく水すすぎをします。

(3) 漂白・鐵拔 くもりあるときは漂白をします。水一立に對し酸性亞硫酸ソーダ二十瓦（二％）の割合の溶液中に約三十分間浸して漂白し、後水一立に對し蔭酸十瓦（一％）の割合の溶液中に約十五分間浸して鐵分を抜き取ります。

(4) 亞美・青味附 水洗して稀い醋酸溶液（水一立に醋酸二、三滴）に布を數分間浸し、光澤と絹鳴とを生ぜしめます。之を亞美法といひます。次に青味附をします。

(5) 糊附・仕上 水一立につきデキストリン一〇瓦（一％）、サリチル酸〇・一瓦（〇・〇一％）の割合の糊をつけて乾かした後に仕上をします。布海苔の糊でもよいのです。仕上はシボ物は湯伸仕上をしますが、他はアイロン仕上をいたします。

(二) 色 布

(1) 豫 洗 白色絹織物に同じ。

(2) 本 洗 脱色の有無を検し、水一立につき良質の石鹼三瓦（〇・三％）又は水一立につき布海苔四瓦（〇・四％）の割合の微温液（四〇度位）に浸し、手早くつかみ洗又は刷毛洗をします。水すすぎをし、白絹の如く亞美法を施して日蔭の風通しのよい所に乾かします。

(4) 糊附・仕上 解洗をした銘仙類は伸子張又は板張仕上とし、其の他のものはアイロン仕上又は湯伸仕上とします。

毛織物

(一) 白 布

(1) 豫 洗 刷毛で塵埃を拂ひ、温水一立に礬砂二瓦（〇・二％）の溶液でつかみ洗をします。

(2) 本 洗 温湯一立（温度五十度）良質の石鹼四瓦（〇・四％）又は炭酸アンモニウム二瓦（〇・二％）に少量のアンモニア水を加へた洗濯液を用ひてつかみ洗又は刷毛洗をします。毛布類の如き大きなものは踏み洗をします。後水すすぎをして風通しのよい所で乾かします。

③ 揉み洗はしませんか。

④ 揉み洗をすると縮まります。毛織物の洗濯は甚だむつかしいものです。高温度の濃いアルカリ溶液で揉み洗をしたならば、地質をいため、毛羽を生じ、縮んでしまひます。白色物は黄色になつてしまひます。

毛織物の縮む性質即ち縮絨性は、左の場合に一層甚だしいものであります。

- (1) アルカリの強いとき。
- (2) 洗濯液の温度の高いとき。又温度の急變するとき。
- (3) 激しく揉むとき。

此のことを頭の中において洗濯をしなくてはなりません。

(3) 漂白・青味附・亞美法 くもりあるときは、絹物の如くに漂白します。青味附もいたします。亞美法としては、水一立にグリセリン數滴を溶し、布をくぐらせ、風通しのよい所で手早く乾かします。

(4) 仕 上 アイロン仕上又は湯伸仕上とします。

(二) 色 布

(1) 豫 洗 刷毛で塵を拂ひ、温水に浸し、手早く洗ひます。

(2) 本 洗 温水一立(温度四十度)・布海苔四瓦(〇・四%)の洗濯液で白布類と同様に洗ひます。亞美法も白布類の如くにします。

(3) 仕 上 仕上は湯伸仕上・アイロン仕上とします。

●毛織物には糊附をしませんか。

●糊附は長く一定の形を保つて着心地よく、特殊の味を附與し、毛羽を伏せるために垢がつきにくい等のために木綿・絹類に施しますが、毛織物は一般に強靱であつて糊附をしない方が却つて味があるので普通には糊附はいたしません。

④人絹と交織物

(一) 人絹織物

人絹織物は乾式洗濯によるのがよいのですが、費用上望まれないから濕式洗濯によります。其の場合には木綿織物に準じて行へばよいのです。たゞ人絹は水に濕すと頗る弱くなりますから、左の諸點に注意しなくてはなりません。

- (1) 操作を手早くすること。
- (2) 振つてしぼらず、壓してしぼること。
- (3) 乾かすときにも布が自身の重さでのびないやうに注意すること。

(二) 交織物

交織物は弱い方の纖維や色合を標準として洗濯をすればよいです。

- (1) 絹綿交織物なれば絹を標準とすること。
- (2) 綿毛交織物なれば毛を標準とすること。

(5) 絹毛交織物なれば毛を標準とすること。

第十七課 染色と色揚

● 家庭染色と色揚

● 染色と色揚とは、之を家庭で行ふと、

- (1) 思ふとほりの色合が染められる。
- (2) 安價である。
- (3) 染屋に頼むよりも早く出来る。
- (4) 趣味を養ひ、鑑賞力を高める。

等と簡條の數々を擧げて其の長所を述べてゐる人もありますが、又一方には家庭染色は概ね成績がよくない上に結局は不經濟に陥るといふ人もあります。

● 相當の指導を受けた人が家庭で簡易な染色や色揚をすることは趣味と實益とからよいことではないでせうか。

● 家庭では浸染と絞染位ならば大抵出来ますが、専門的のことは特殊の技能ある人でないとむづかしいです。

● 染料

●染料の數も澤山あります。



このうちで家庭用としては左の三つ位が適當であります。

- (1) 直接染料 木綿・麻・人造絹絲 色は餘り美しくありませんが安價で染法が簡易であります。
- (2) 酸性染料 絹・羊毛 色は稍美しく日光に強いです。染法は簡易であります。
- (3) 鹽基性染料 絹 色は美しいけれども日光には弱いです。

◎染色の方法

(一) 浸染

●浸染は染料の溶液中に染める品物を浸し込んで染める方法で布の無地染に應用される染術であります。

(1) 直接染料で木綿・人絹を染めること。

(1) 布の目方をはかり、水又は湯に浸し、糊を落し、汚れてゐるものは煮洗をして染斑の出来ないやうにしておきます。

(2) 染料を必要な分量だけとつて少量の湯によく溶かします。分量は次の表を御覽なさい。

種類	濃色	中色	淡色
直接染料	三―八%	一―三%	一%以下
助剤			
炭酸ソーダ	一―二%	二―三%	五%
食鹽	一五―二〇%	一〇%	—
水	布を十分浸すだけ(約二〇倍)		

(3) 洗面器の如く熱に堪へる器に布が十分浸り得るだけの水を入れ、之に助剤として炭酸ソーダと食鹽とを入れ、炭酸ソーダは染斑を防ぎ、食鹽は染色をよくするために入れる。

のであります。分量は表に示すとほりであります。

(4) 水に助剤を入れた液に先に溶しておいた染料の溶液の一部を加へ布を入れ棒で繰り返します。

一旦引き上げ、残りの染料の一部分を加へ、布を入れて又繰りかへします。かくて色合をたしかめ、徐々に加熱し、沸騰させること三十分間位の後に引上げて冷し、完全に水洗をします。

(5) 水洗して後は蔭干とします。

(2) 酸性染料で絹毛を染めること。

(1) 布の目方をはかり、布の糊氣・汚れを去るために水に浸します。

(2) 染料を熱湯で溶します。分量は繊維の目方に對し、表の如き割合とします。

	濃	色	中	色	濃	色
酸性染料	三—六%		一—三%		一%以下	
助劑 醋酸	三—四%		二—三%		一—二%	
水	三〇—四〇倍					

(3) 染釜に布を十分に浸し得るだけの水を入れます。之に熱湯で溶しておいた染料溶液の一部分を加へてよくかきまはし、水につけて糊氣を落

しておいた布を浸します。次で残りの染色を數回に加へて色合を見ます。

(4) 徐々に加熱し沸騰前に布を取り出し、助劑として醋酸を表に示す分量だけ入れます。醋酸は染着をよくするために入れるのであります。

(5) 望みの色合に染着したときは、布を取出し冷して水洗をします。

(3) 鹽基性染料で絹を染めること。

(1) 染める手續は前二者に同じ。

(2) 染料の分量は繊維の重量に對し左の割合とします。

濃色 二%以上 中色 一—二% 淡色 一%以下

(二) 絞 染

絞染は布の所々に望みの模様を表はすやう、絲其の他適當の手段によつて固く括り、布全體を染液に浸して染め、後で括りを解いて模様をあらはす方法であります。

(1) 下 繪

(1) 布地の用途・嗜好に應じて圖案をつくる。

(2) 圖案によつて布地に下繪を描く。下繪には青花紙に水をつけて浸出させた青花液を用ひます。

(2) 絞 り 方

(1) 下繪の線に沿ふて適當な絞りをし、絲を固く引締めておきます。絞り方には種々あります。

捲上絞・柳絞・平縫捲上絞・平縫引締絞・摘み縫絞・手綱絞・鹿子絞・疋田絞・三浦絞・叢雲絞・忍染絞・板締絞・立涌絞

(2) 絞り絲には二〇番手乃至三十番手のカタン絲を用ひます。絞の種類により、一本で絞る場合と二本で絞る場合とがあります。



絞涌立



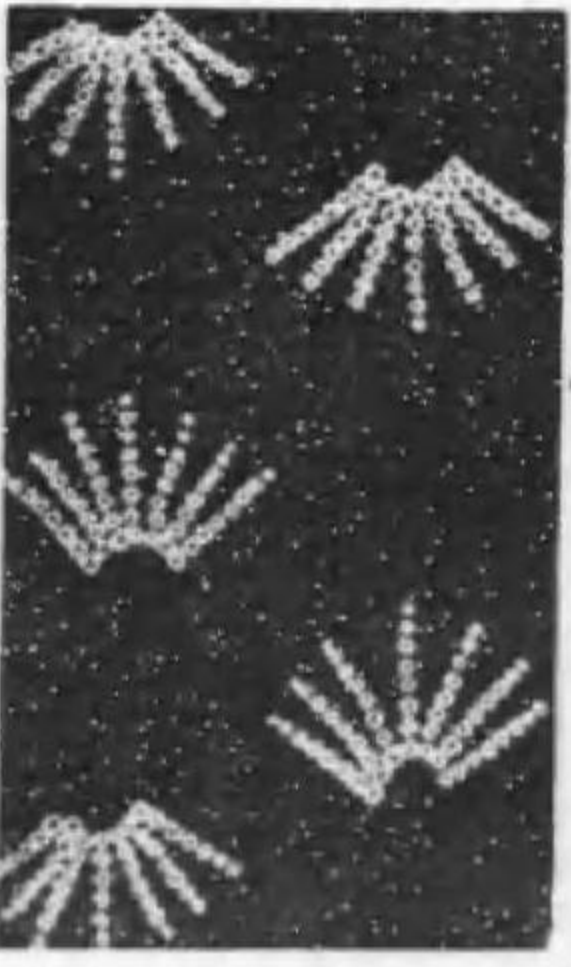
絞網手



絞雲叢



絞子の鹿



絞田西



絞柳



絞縫
(七宝織平)



絞染忍



絞締板

(桂商店「都染」の標本より)

③ 染色

(1) 繊維の種類によつて適當な染料を選び、絞つた布を豫め水又は温湯に浸し、浸染の方法を參酌して染めます。

(2) 染色の時間は布の地質・絞り方・染料の種類によつて一定しません。叢雲絞の如きは染液を濃くして五分間以内とし、絲で固く引締めた絞は無地染の場合に準じます。一般にいへば染液は成るべく濃いものを用ひ、熱液で短時間に染め上げる方が染液が絞の部分まで浸入する虞がありません。

(4) 仕上

(1) 布が乾いたときは絞り絲を解いて軽く湯伸仕上をします。鹿の子絞は湯伸仕上をして後に絲を解く方がよいのです。

(2) 木綿・平絹・モスリン等で地色の廣い部分はアイロン仕上をします。

(3) 一般に絞模様部分は其のまゝにしておく方が雅致があつてよいです。

⑤ 絞染は近頃流行してゐます。東京の「都染」桂商店などは年中無料で教へてゐます。二日間で大體出来るやうになるさうで評判になつてゐます。

基本が出来たら其の後も種々の染め方を指導して下さるさうです。大阪の桐山染料店なども講習をするとか聞いてゐます。

④ 色揚と染替

⑥ 衣服の變色したものをもとの色と同じ色に染めるのを色揚といひ、他の色に染め替へるのを染替

といひます。

染替にはもとの色に他の色をかけて望みの色にする場合、例へば、

紫 + 緑 || オリーブ 赤 + 青 || 紫

青 + 黄 || 緑 紫 + 橙 || 海老茶

の如くする場合ともとの色を抜いてしまつて新たな色に染める場合とがあります。色抜をして新たな色に染めることは家庭作業としてはむづかしいです。色揚の場合には染料は概ねうすいものを用ひます。

師生對話 衣類整理法 (終)

昭和十二年六月十日印刷
昭和十二年六月十五日發行

定價金七拾錢

著作者 家事教授研究會

東京市四谷區本村町二七番地

發行者 合資會社 文光社

代表者 大元茂一郎

東京市京橋區木挽町二丁目十一番地

印刷者 永島冬二

東京市京橋區木挽町二丁目十一番地

印刷所 冬水社印刷

發行所

東京市四谷區本村町二七番地
振替口座東京六六貳貳壹番
東京市神田區駿河臺三ノ一
振替口座東京二八〇九番

合資會社 文光書店

不許複製



終

